

IV-i-5. 【持続性】

(1) おかやまサイエンス・トーク

岡山大学ウーマン・テニユア・トラック（WTT）教員と大学院生が理系分野の研究紹介を通して、中・高校生に科学の面白さを伝え、理系分野への興味を深めることを期待し、中学・高校に出向いて「おかやまサイエンス・トーク」を実施している。



本事業は平成22年度から開始し、平成23年度は岡山県内の高校・中学校を対象に5回実施した。各回とも参加生徒からは、研究紹介に限らず大学生活に関することなど多くの質問が寄せられており、活発なフリー・トーキングが行われ好評を博している。

また、事前に研究紹介者を対象とした説明会を1回、練習会を1から2回行うなど準備にも力を入れている。

表 4-8 平成23年度の実施内容

開催校	研究紹介タイトル	研究紹介者
岡山県立総社高校 (平成23年7月)	「季節を知る生物」	玉木 沙織 氏 大学院自然科学研究科 博士前期課程1年
	「生命を支える糖鎖」	前田 恵 氏(第Ⅱ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 特任助教
岡山県立勝山高校 (平成23年7月)	「CPGによる4脚歩行ロボットの歩容生成」	西阪 麻衣子 氏 大学院自然科学研究科 博士前期課程2年
	「生物の行動を支配するホルモン, その進化」	御輿 真穂 氏(第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 特任助教 理学部附属牛窓臨海実験所
岡山県立矢掛高校 (平成23年7月)	「生物の行動と体内時計」	花房 志帆 氏 大学院自然科学研究科 博士前期課程1年
	「電子の動きを探って 物質の性質を見よう, 変えよう」	江口 律子 氏(第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 特任助教 理学部附属界面科学研究施設
岡山大学 教育学部附属中学校 (平成23年9月)	「ぜんそく重症度の簡易検査キット」	兵田 朋子 氏 大学院保健学研究科 博士前期課程2年
	「光合成の研究」	吉岡 美保 氏(第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 特任助教
岡山県立岡山一宮高校 (平成23年7月)	「ヤマブドウの発がん予防効果について」	藤井 奈々 氏 大学院歯薬学総合研究科 博士前期課程2年
	「森の樹木の豊作と凶作: 開花・結実のメカニズムと次世代の残し方」	宮崎 祐子 氏(第Ⅱ期WTT教員) 大学院環境学研究科 特任助教

IV-i-5 (1) おかやまサイエンス・トーク

1) 平成23年度 第1回おかやまサイエンス・トークの実施

【事業名】平成23年度 第1回おかやまサイエンス・トーク

(The First Okayama Science Talk in High School)

【共催】岡山県立総社高等学校・岡山大学

【日時】平成23年7月12日(火) 14:00~15:40

【場所】岡山県立総社高等学校(総社市総社)

【対象生徒】自然探求コース1, 2年生 他(約60名)

【高校側担当者】高谷 和明 教諭

【研究紹介者およびフリー・トーキング】

- ①岡山大学 第Ⅱ期ウーマン・テニユア・トラック教員1名 / 大学院生1名
 - ・前田 恵 博士(大学院自然科学研究科(農) 特任助教: 第Ⅱ期 WTT 教員)
 - ・玉木 沙織 氏(岡山大学大学院自然科学研究科(理) 博士前期課程1年)
- ②フリー・トーキング: 前田助教, 玉木氏
 - 司会: 柴田 利明 教諭

【実施概要】

平成23年7月12日に「平成23年度 第1回おかやまサイエンス・トーク」を岡山県立総社高等学校と岡山大学との共催で実施した。総社高校とは平成22年度に続いて、2年連続の共催となった。総社高校の新井悟校長先生を始め、教職員の皆様のご協力の下に、自然探求コース1, 2年生など約60名にご参加頂いた。

研究紹介では「季節を知る生物」と題し、自然科学研究科博士前期課程1年の玉木沙織さんに昆虫のタンボコオロギを用いた研究を紹介して頂いた。続いて前田恵助教には「生命を支える糖鎖」をテーマに、ご自身の研究テーマのひとつである植物細胞の糖鎖の生理機能についてご紹介頂いた。生徒からは「これからもっと理科を頑張りたい」等の感想が寄せられ、学業への意欲の向上にも繋げることができた。



玉木 沙織氏
(岡山大学大学院自然科学研究科(理)
博士前期課程1年)

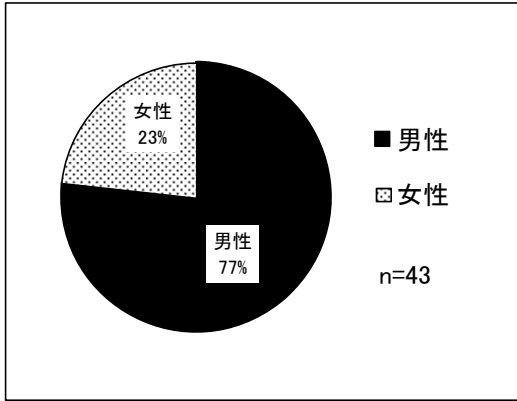


前田 恵氏
(岡山大学 WTT 教員・
大学院自然科学研究科(農) 特任助教)

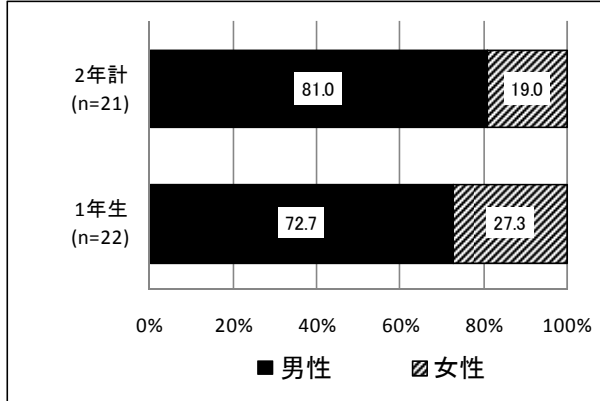
平成23年度 第1回おかやまサイエンス・トークアンケート

【回答者のプロフィール】

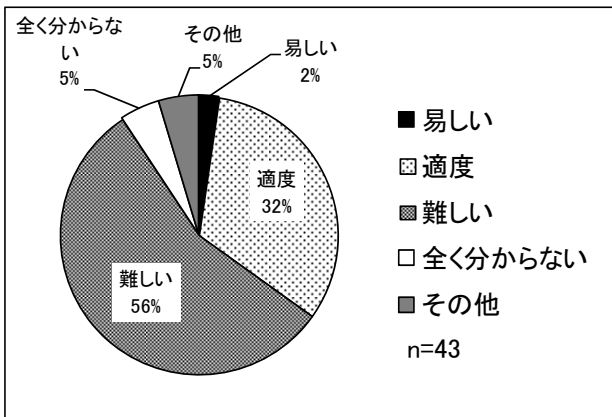
性別



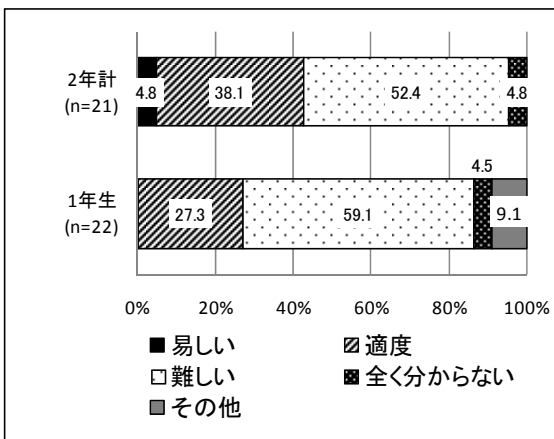
性別×学年



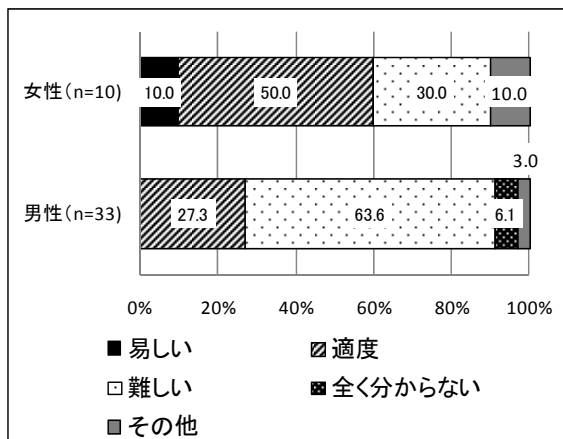
【Q1. 研究紹介のレベル】



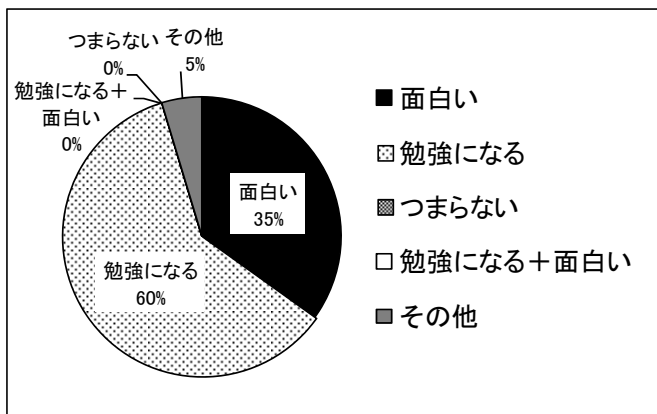
Q1×学年



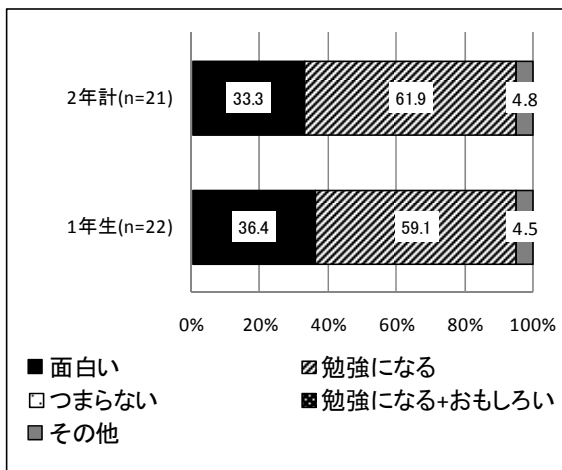
Q1×性別



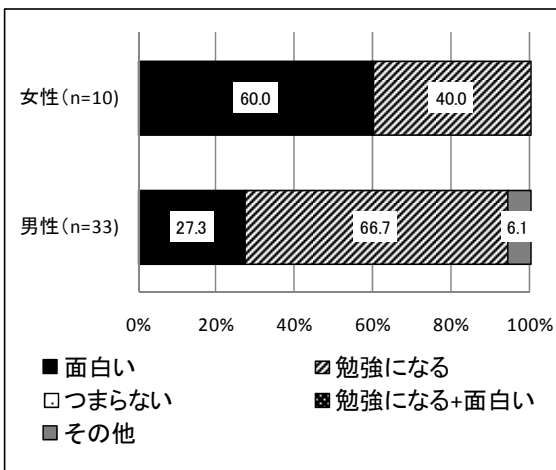
【Q2. 内容についての印象】



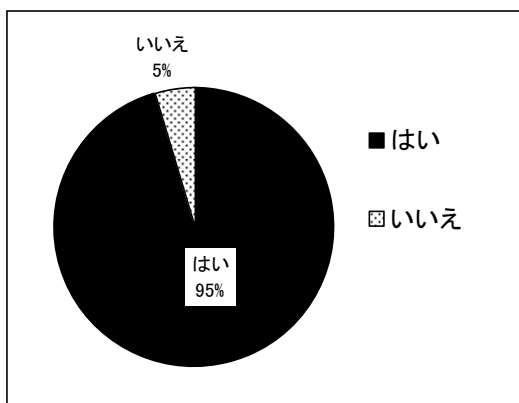
Q2 × 学年



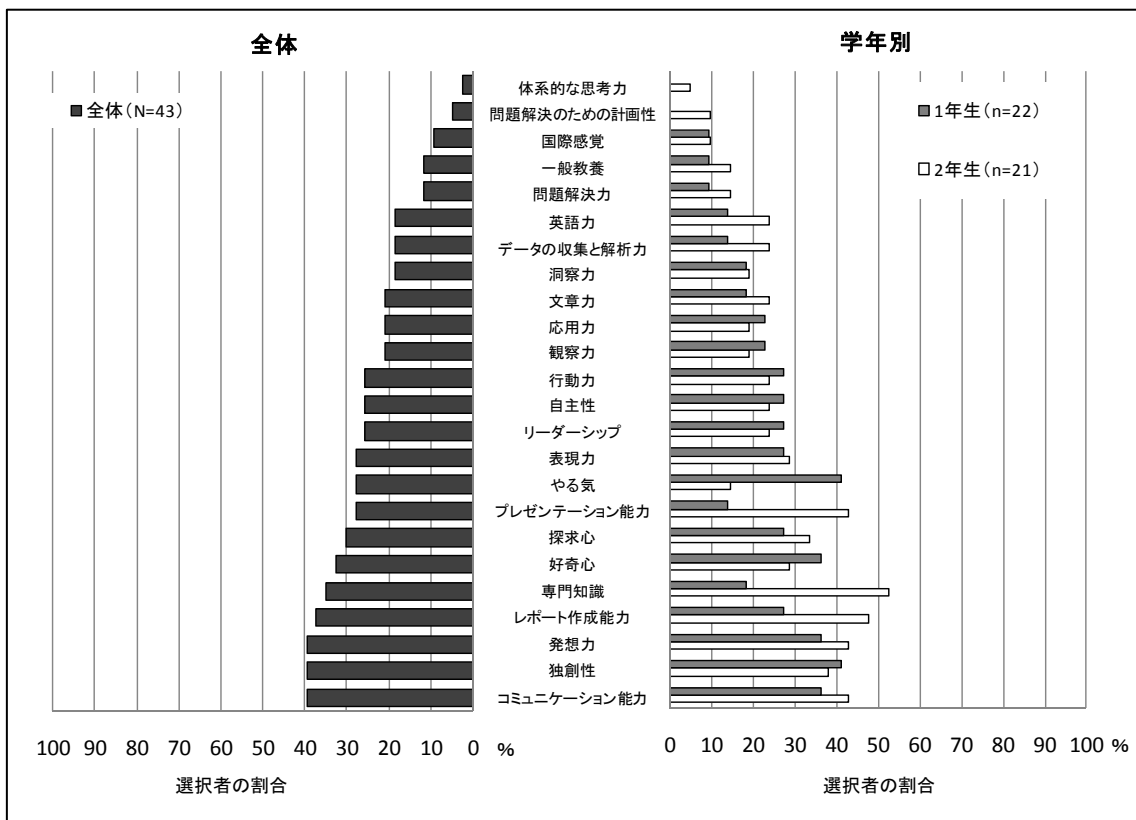
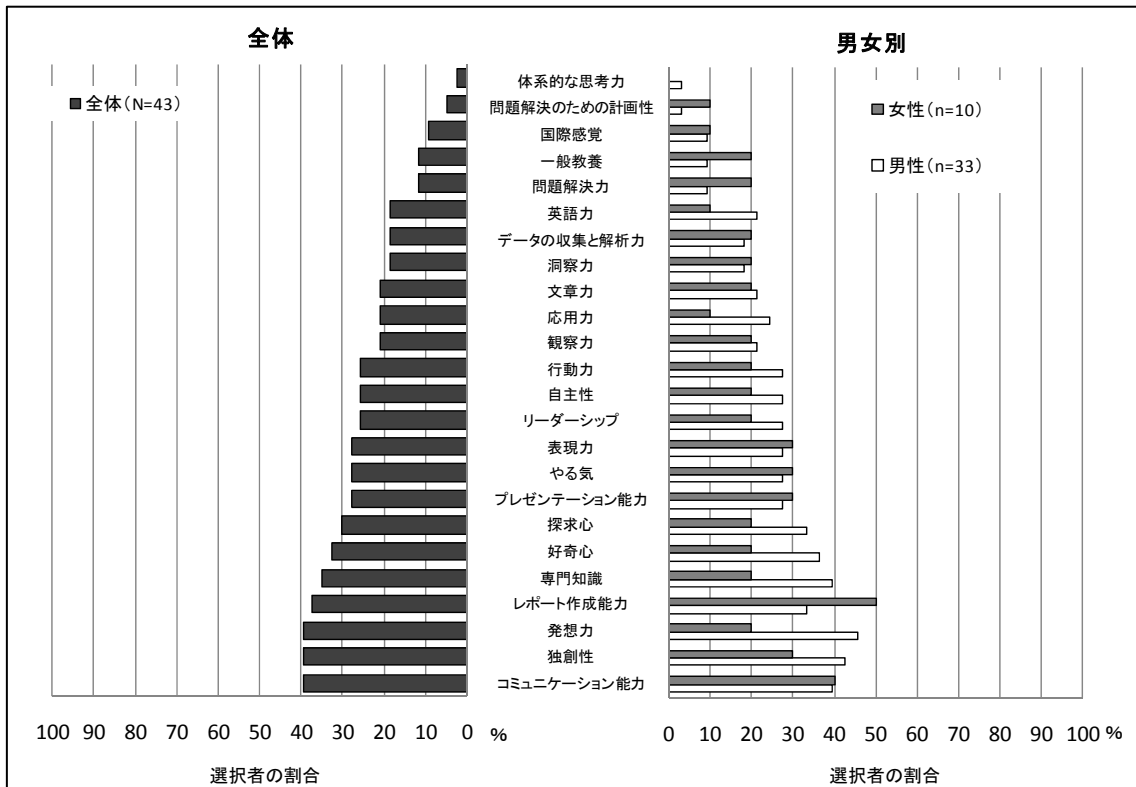
Q2 × 性別



【Q3 このような機会があればまた参加したいですか】



【Q4 大学に進学して将来身に付けたい項目（複数選択）】



IV-i-5 (1) おかやまサイエンス・トーク

2) 平成23年度 第2回おかやまサイエンス・トークの実施

【事業名】平成23年度 第2回おかやまサイエンス・トーク

(The Second Okayama Science Talk in High School)

【共催】岡山県立勝山高等学校・岡山大学

【日時】平成23年7月20日(水) 10:35~12:15

【場所】岡山県立勝山高等学校(真庭市勝山)

【対象生徒】2・3年生の理系生徒全員(2年生41名,3年生42名 合計84名)

【高校側担当者】寺本 晋介 教諭

【研究紹介者およびフリー・トーキング】

- ①岡山大学 第I期ウーマン・テニユア・トラック教員1名/大学院生1名
 - ・御輿 真穂 博士(岡山大学大学院自然科学研究科 特任助教
/第I期WTT教員)
 - ・西阪 麻衣子 氏(岡山大学大学院自然科学研究科(工) 博士前期課程2年)
- ②フリー・トーキング: 御輿助教, 西阪氏
司会: 金田 徹 教諭

【実施概要】

平成23年7月20日、「平成23年度 第2回おかやまサイエンス・トーク」を岡山県立勝山高等学校と岡山大学との共催で実施し、勝山高の2年生と3年生の理系生徒84名にご参加頂いた。

橋本達也校長先生の開会のご挨拶に続いて始まった研究紹介では、自然科学研究科博士前期課程2年の西阪麻衣子さんに「CPGによる4脚歩行ロボットの歩容生成」と題して、自然に歩行を行っている生物の歩行システムを利用してロボットを歩行させる試みについてお話し頂いた。続いて御輿真穂助教(岡山大学WTT教員)に、「生物の行動を支配するホルモン、その進化」と題して身近な海の生物を例に研究を紹介して頂いた。生徒の皆さんからは「難しかったけど工学により興味をもてました」、「研究職もいいものだと思います」等の感想が寄せられ好評であった。



西阪 麻衣子氏
(岡山大学院自然科学研究科(工)
博士後期課程2年)

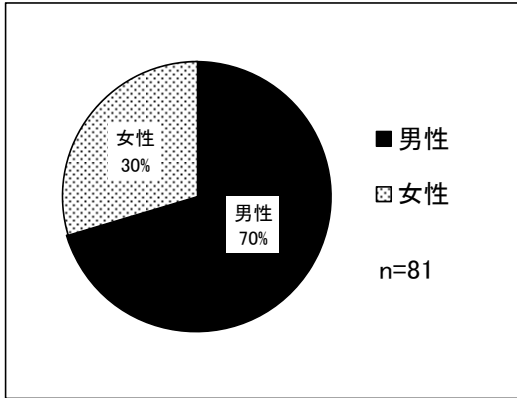


御輿 真穂氏
(岡山大学WTT教員・
大学院自然科学研究科(理) 特任助教)

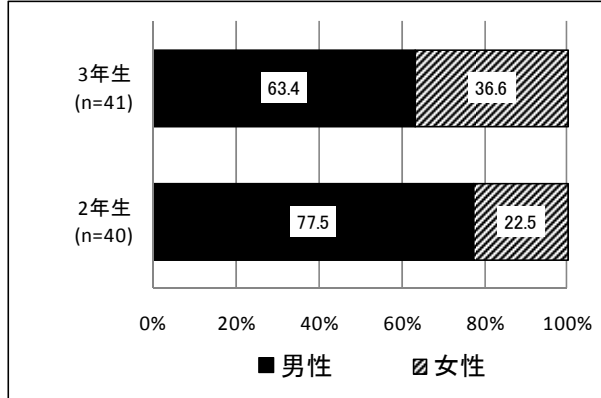
平成23年度 第2回おかやまサイエンス・トークアンケート

【回答者のプロフィール】

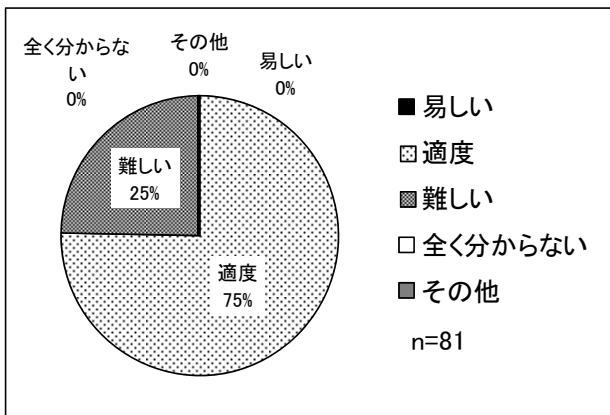
性別



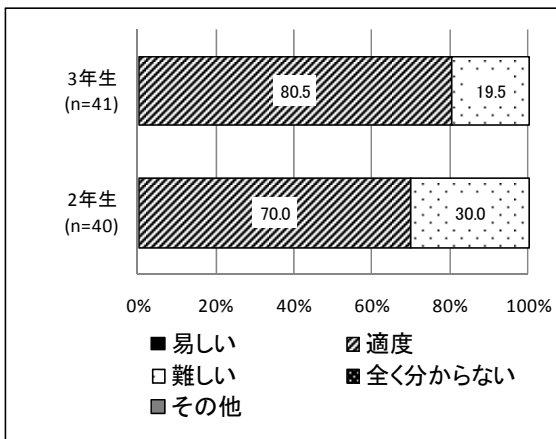
性別×学年



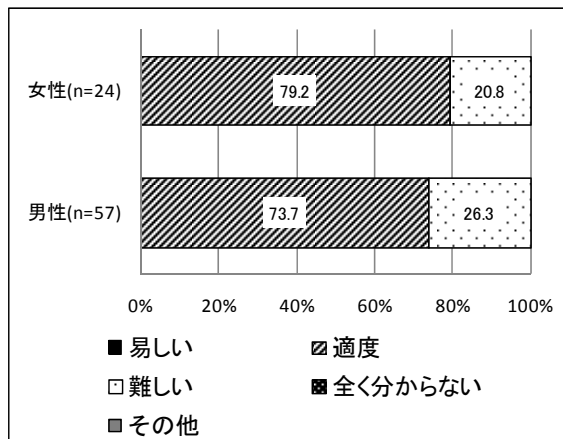
【Q1. 研究紹介のレベル】



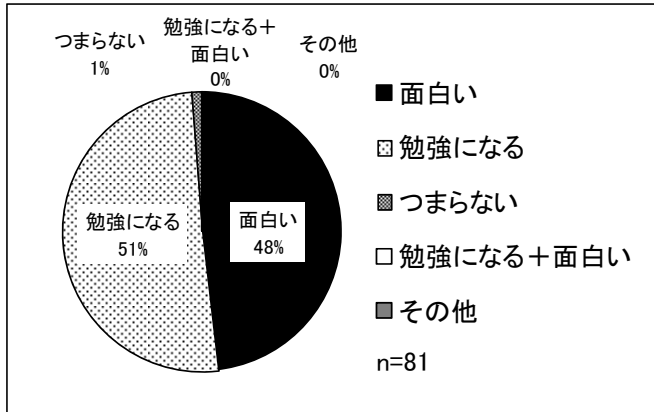
Q1×学年



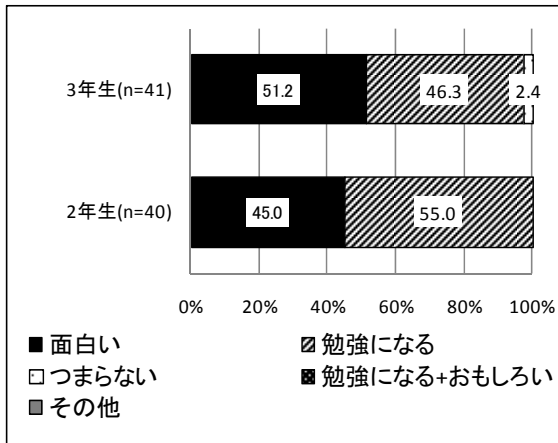
Q1×性別



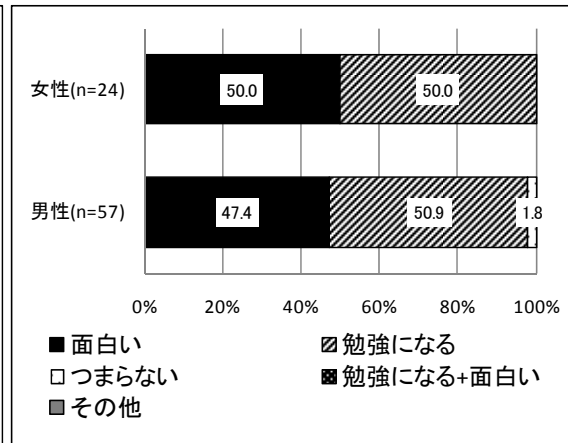
【Q2. 内容についての印象】



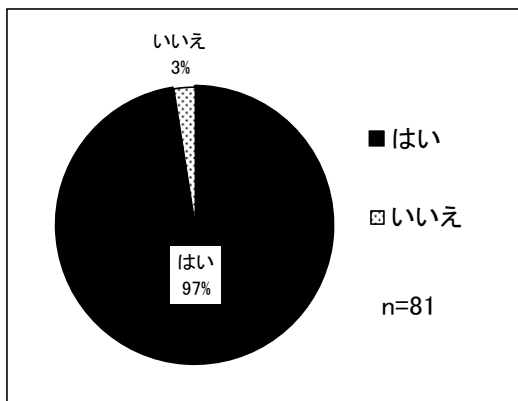
Q2 × 学年



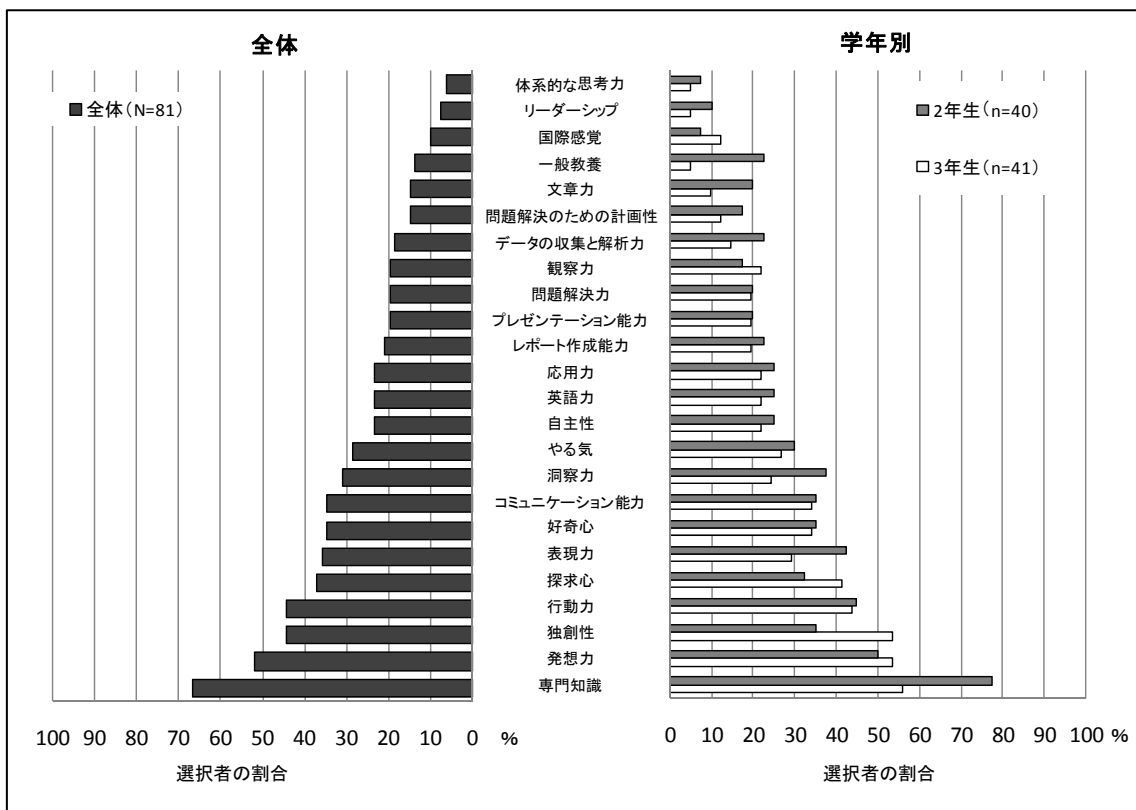
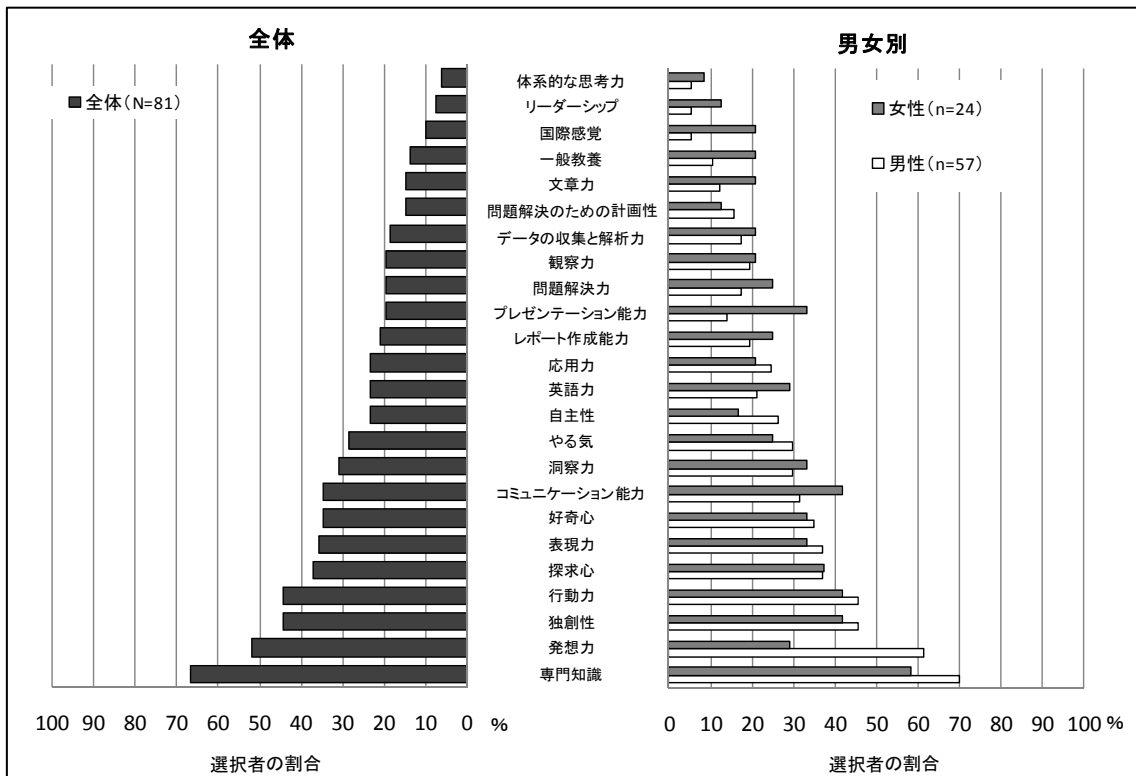
Q2 × 性別



【Q3 このような機会があればまた参加したいですか】



【Q4 大学に進学して将来身に付けたい項目（複数選択）】



IV-i-5 (1) おかやまサイエンス・トーク

3) 平成23年度 第3回おかやまサイエンス・トークの実施

【事業名】平成23年度 第3回おかやまサイエンス・トーク

(The Third Okayama Science Talk in High School)

【共催】岡山県立矢掛高等学校・岡山大学

【日時】平成23年7月26日(火) 14:15~15:50

【場所】岡山県立矢掛高等学校(小田郡矢掛町)

【対象生徒】2,3年生理系生徒(合計約45名)

【高校側担当者】加本 英人 教諭

【研究紹介者およびフリー・トーキング】

- ①岡山大学 第I期ウーマン・テニユア・トラック教員1名/大学院生1名
 - ・江口 律子 博士(大学院自然科学研究科(理)特任助教/第I期WTT教員)
 - ・花房 志帆 氏(岡山大学大学院自然科学研究科(理)博士前期課程1年)
- ②フリー・トーキング: 江口助教, 花房氏
 - 司会: 加本 英人 教諭

【実施概要】

平成23年7月26日に「平成23年度 第3回おかやまサイエンス・トーク」を岡山県立矢掛高等学校と岡山大学との共催で実施し、2年生,3年生の理系生徒,約45名の皆様にご参加頂いた。

研究紹介では自然科学研究科博士前期課程1年の花房志帆さんに「生物の行動と体内時計」と題し、江口律子助教に「電子の動きを調べて物質の性質を見よう、変えよう」と題してご自身の研究を紹介して頂いた。

参加生徒の皆さんからは「研究がどのようなものか少しわかったし、自分も頑張ろうと思えました」、「大学の様子なども学べ、今後の参考になりました」等、多くの感想や質問が寄せられた。



花房 志帆氏
(岡山大学院自然科学研究科(理)
博士前期課程1年)

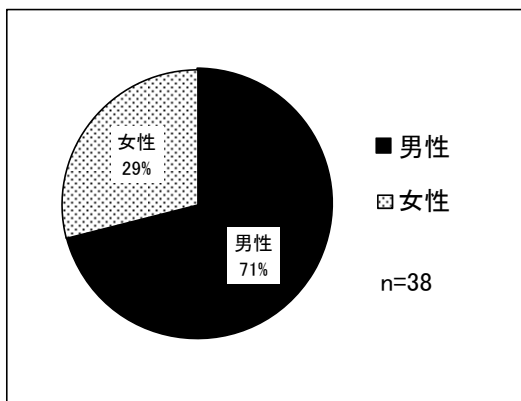


江口 律子氏
(岡山大学WTT教員・
大学院自然科学研究科(理)特任助教)

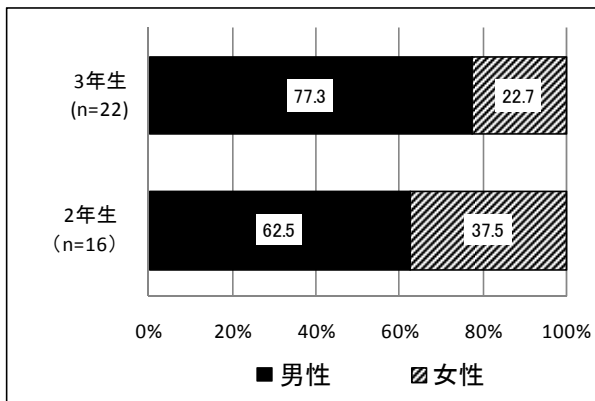
平成23年度 第3回おかやまサイエンス・トークアンケート

【回答者のプロフィール】

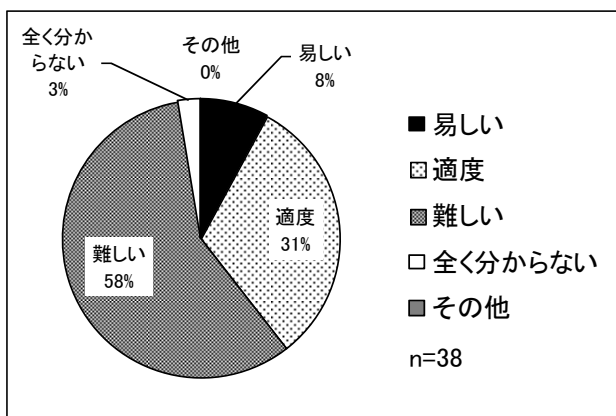
性別



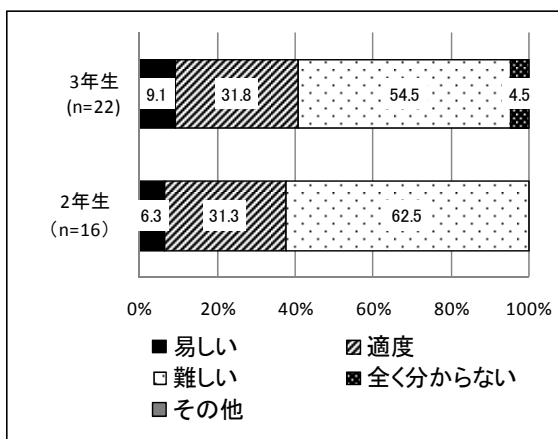
性別×学年



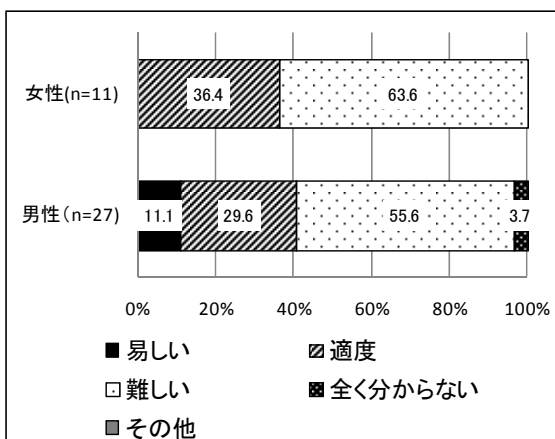
【Q1. 研究紹介のレベル】



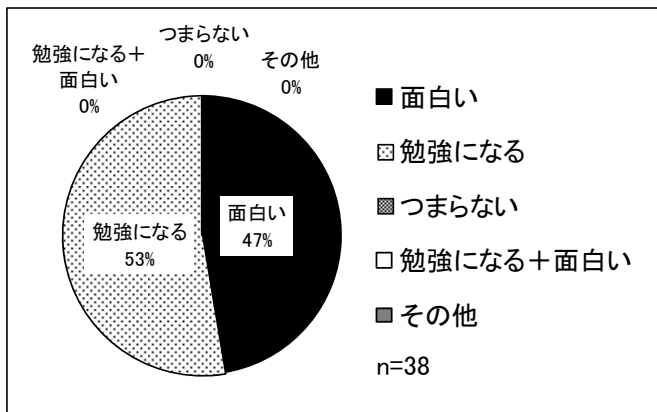
Q1×学年



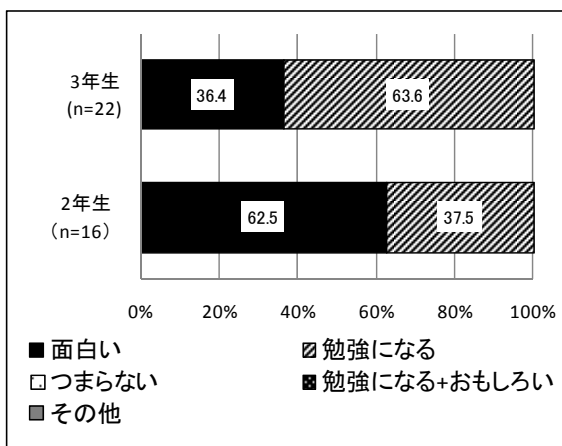
Q1×性別



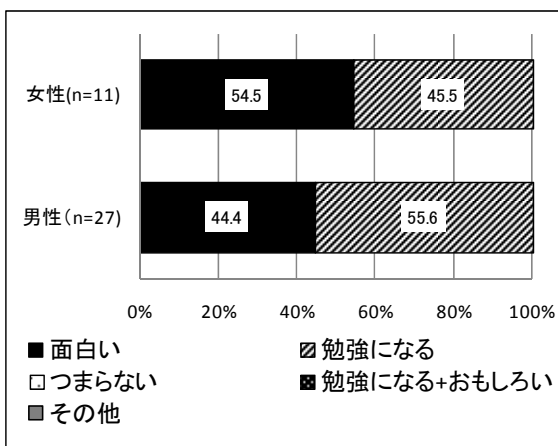
【Q2. 内容についての印象】



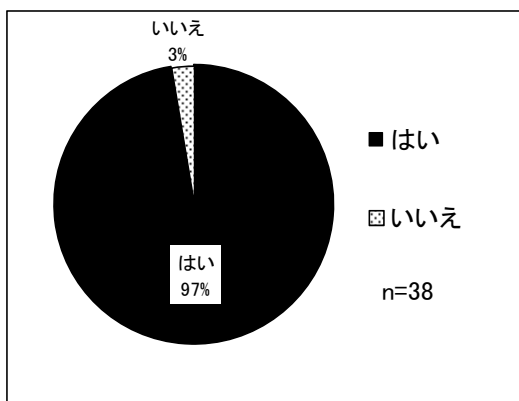
Q2 × 学年



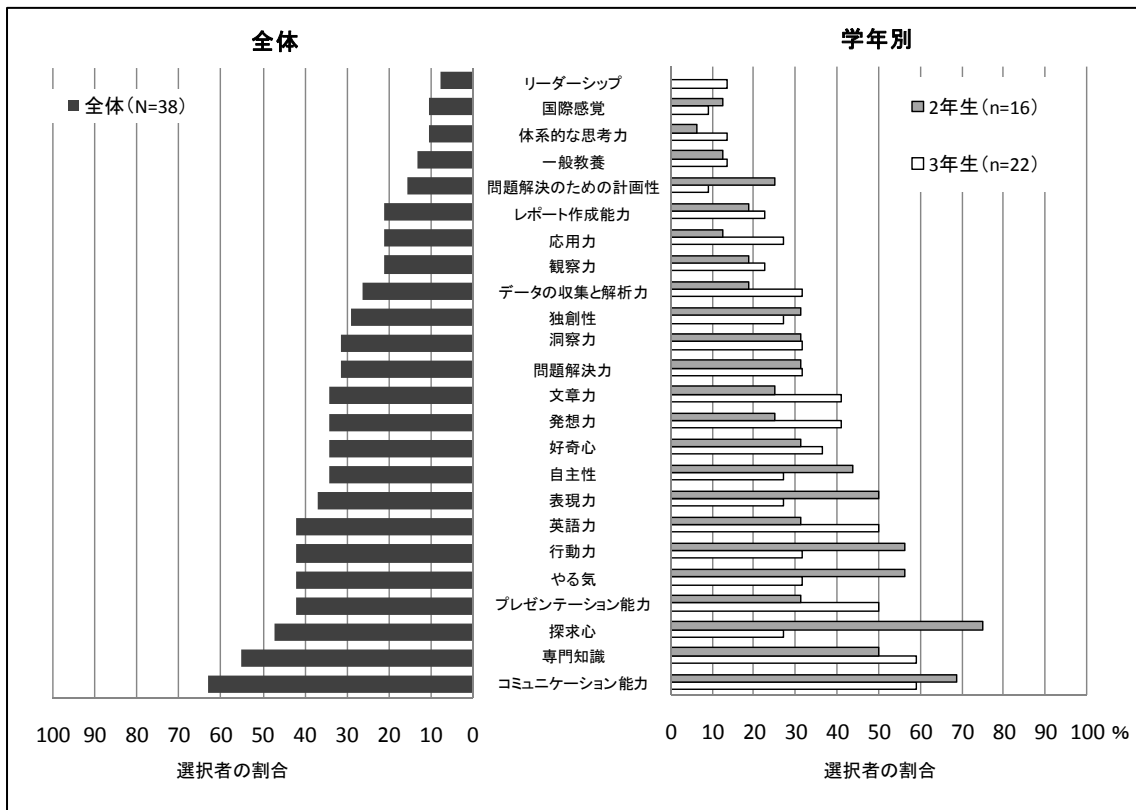
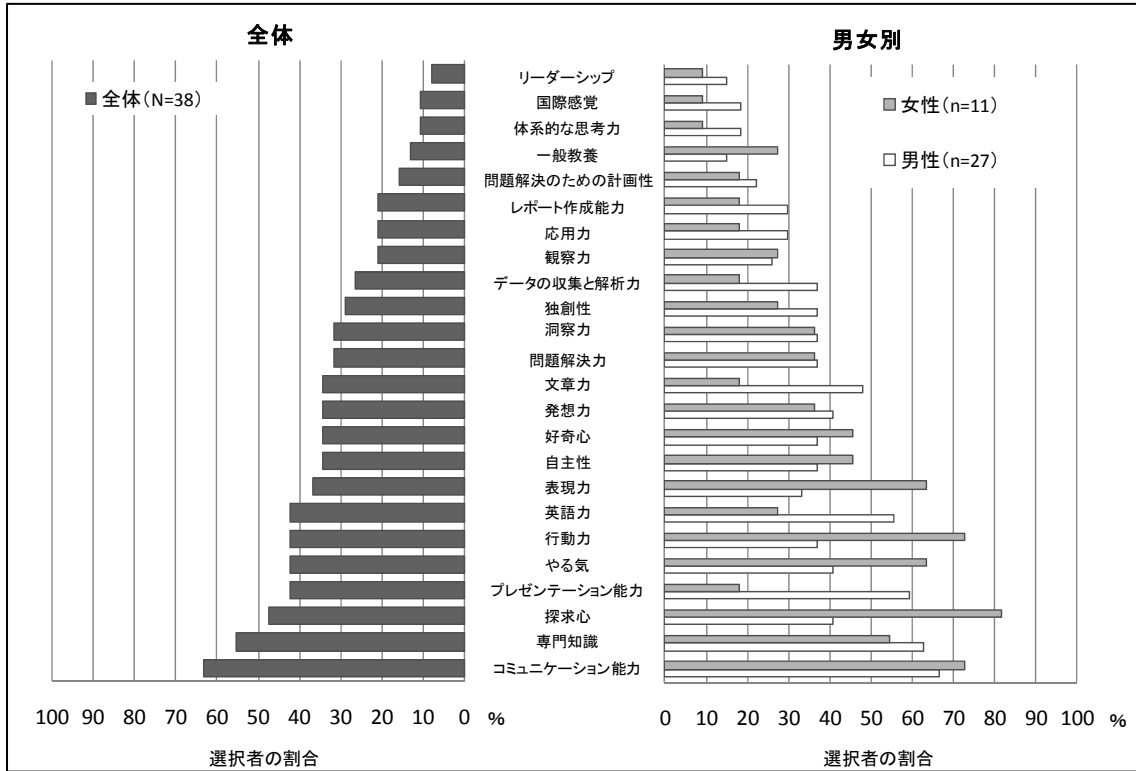
Q2 × 性別



【Q3 このような機会があればまた参加したいですか】



【Q4 大学に進学して将来身に付けたい項目】



IV-i-5 (1) おかやまサイエンス・トーク

4) 平成23年度 第4回おかやまサイエンス・トークの実施

【事業名】平成23年度 第4回おかやまサイエンス・トーク

(The Fourth Okayama Science Talk in High School)

【共催】岡山大学教育学部附属中学校・男女共同参画室

【日時】平成23年9月28日(水) 11:55~12:45

【場所】岡山大学教育学部附属中学校(岡山市中区東山)

【対象生徒】3年生 197名, 教員11名(合計208名)

【高校側担当者】山本 松美 教頭

【研究紹介者】

岡山大学 第I期ウーマン・テニユア・トラック教員1名/大学院生1名

・吉岡 美保 博士(大学院自然科学研究科(理)特任助教:第I期WTT教員)

・兵田 朋子 氏(岡山大学大学院保健学研究科 博士前期課程2年)

【実施概要】

平成23年9月28日に「平成23年度 第4回おかやまサイエンス・トーク」を岡山大学教育学部附属中学校にて実施した。

研究紹介では保健学研究科博士前期課程2年の兵田朋子さんに「ぜんそく重症度の簡易検査キット」と題し、ぜんそくで苦しむ患者のために、ぜんそくをコントロールする上で重要な指標となる、検査キットの開発を目指す取組を紹介して頂いた。続いて岡山大学ウーマン・テニユア・トラック(WTT)教員の吉岡美保助教に、「光合成の研究」と題して、光合成の仕組みを解明することで実現する夢の技術について、植物の光合成の仕組みを交えて紹介して頂いた。

中学校での開催は初めての試みであったが、生徒のみなさんからは、たくさんの質問が寄せられた。また、「驚いた」、「興味深かった」という感想が多く、中には「理系に興味をもてました」、「私にも調べられたら楽しいだろうな」、「私も将来何かひとつのことを研究していきたい」といった感想も寄せられた。



兵田 朋子氏
(岡山大学院保健学研究科
博士前期課程2年)

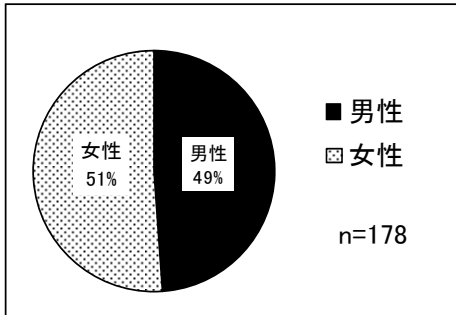


吉岡 美保氏
(岡山大学 WTT 教員
大学院自然科学研究科(理) 特任助教)

平成23年度 第4回おかやまサイエンス・トークアンケート

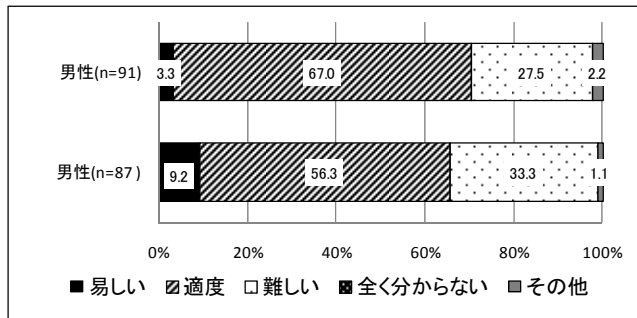
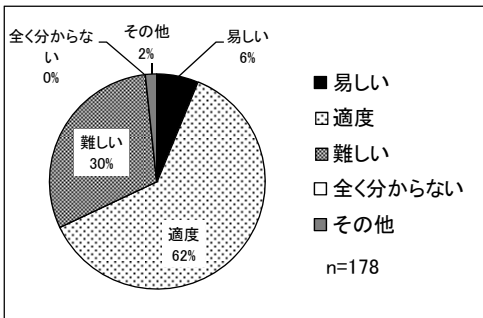
【回答者のプロフィール】

性別



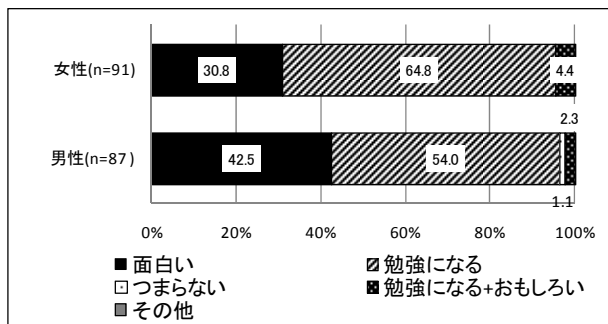
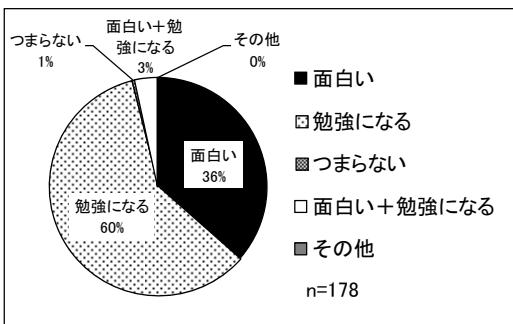
【Q1. 研究紹介のレベル】

Q1 × 性別

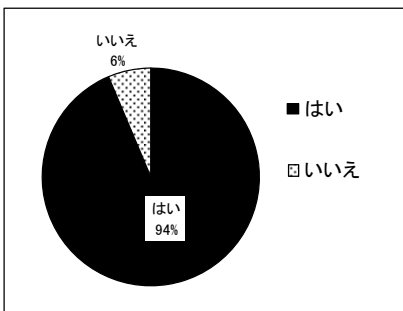


【Q2. 内容についての印象】

Q2 × 普通科・理数科



【Q3. このような機会があれば再び参加したいですか】



IV-i-5 (1) おかやまサイエンス・トーク

5) 平成23年度 第5回おかやまサイエンス・トークの実施

【事業名】平成23年度 第5回おかやまサイエンス・トーク

(The Fifth Okayama Science Talk in High School)

【共催】岡山県立岡山一宮高等学校・岡山大学

【日時】平成23年10月18日(火) 13:30~15:05

【場所】岡山県立岡山一宮高等学校(岡山市北区榑津)

【対象生徒】2年生生理系・理数科女子生徒(合計約名60名)

【高校側担当者】木村 健二 理数科長

【研究紹介者およびフリー・トーキング】

岡山大学 第II期ウーマン・テニユア・トラック教員1名/大学院生1名。

・宮崎 祐子 博士(岡山大学大学院環境学研究科 特任助教:第II期WTT教員)

・藤井 奈々 氏(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(薬)博士前期課程2年)

フリー・トーキング:宮崎助教,藤井氏/司会:入江 忍 教諭

【実施概要】

平成23年10月18日,岡山一宮高校との2年連続,2回目の共催となる「平成23年度 第5回おかやまサイエンス・トーク」を実施し,岡山一宮高校の2年生生理系・理数科女子生徒約60名にご参加頂いた。

医歯薬学総合研究科博士前期課程2年の藤井奈々さんに,研究室の様子や学生生活の紹介を交えて「ヤマブドウの発がん予防効果」をテーマに分かりやすくお話し頂いた。続いて宮崎祐子助教(岡山大学WTT教員)に「森の樹木の豊作と凶作:開花・結実のメカニズムと次世代の残し方」と題して,植物の開花・結実の豊凶現象(マस्टィング)がなぜ,どのようにして起こるのかについて,メカニズムの解明に迫る研究をご紹介頂いた。

フリー・トーキングでは参加生徒のみなさんから多くの質問があり,アンケートには「研究室が本当に楽しい所なんだなとうらやましく思いました」などの感想が寄せられた。



藤井 奈々氏
(岡山大学院医歯薬学総合研究科(薬)
博士前期課程3年)

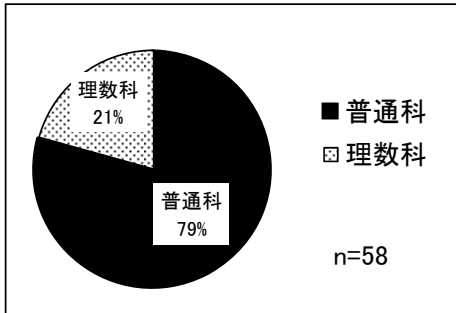


宮崎 祐子氏
(岡山大学WTT教員・
大学院環境学研究科(農)特任助教)

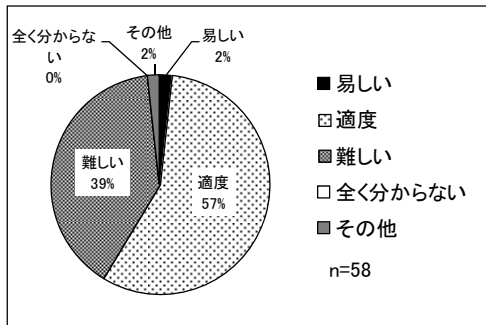
平成23年度 第5回おかやまサイエンス・トークアンケート

【回答者のプロフィール】

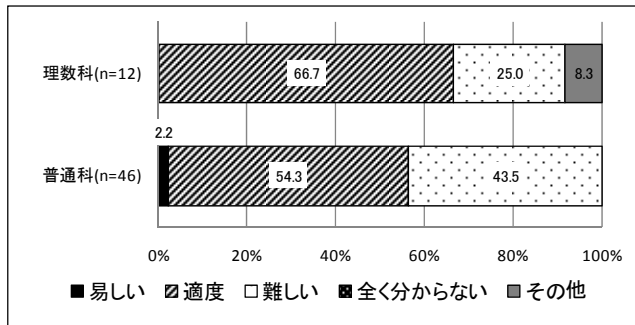
普通科・理数科



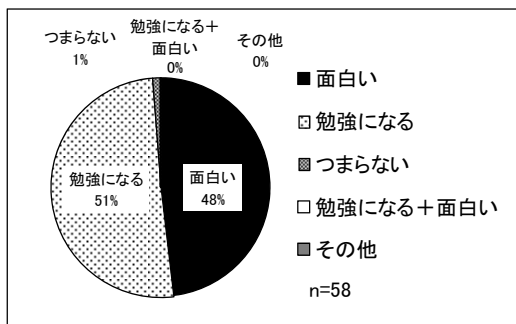
【Q1. 研究紹介のレベル】



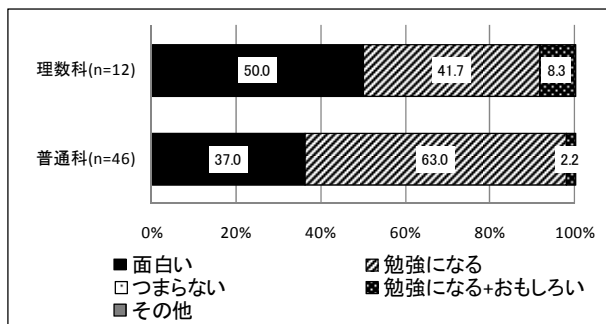
Q1 × 普通科・理数科



【Q2. 内容についての印象】

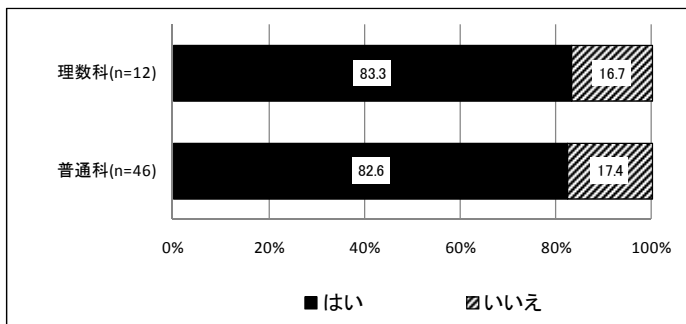
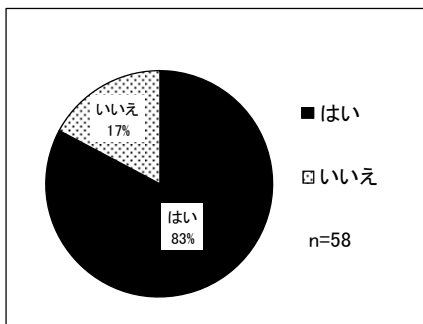


Q2 × 普通科・理数科



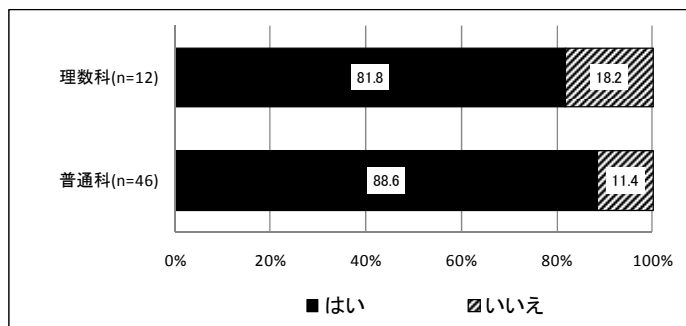
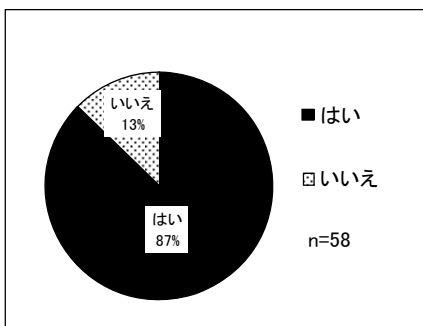
【Q3. このような機会があれば再び参加したいですか】

Q3 × 普通科・理数科

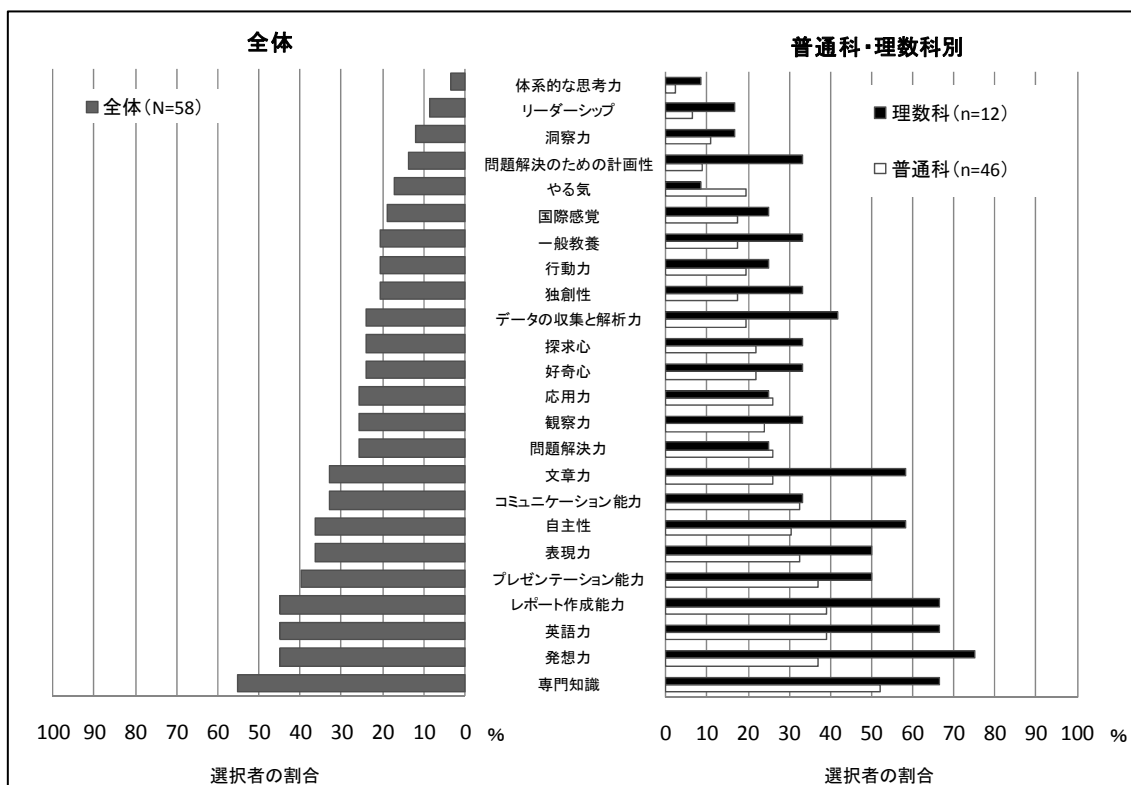


【Q4. 研究をしたいと思いましたが】

Q4 × 普通科・理数科



【Q5. 大学に進学して将来身に付けたい項目（複数選択）】



IV-i-5 (2) 平成23年度オープンキャンパス参加企画

【事業名】理系の魅力 女子高生の皆さんへ

【日時】平成23年8月5日(金)・6日(土) 11:00~16:00

【場所】岡山大学総合案内センター(大学会館)喫茶コーナー

【対象生徒】高校生・保護者・引率教員

【協力学生】

理系(理学・工学・農学・環境理工学・薬学・保健学)の大学生・大学院生12名

- ・理学系：駒田 さやか氏(学部生)
- ・農学系：太田 奈緒子氏(大学院生)
- ・保健学系：兵田朋子氏(大学院生)
- ・薬学系：藤井 奈々氏(大学院生)
内山 友世氏(学部生) / 宮本 敬子氏(学部生)
- ・工学系：綾野 敬子氏(大学院生) / 西阪 麻衣子氏(大学院生)
舟場 真衣香氏(大学院生) / 本仲 君子氏(大学院生)
- ・環境理工学系：内田 春香氏(学部生) / 仁内 実和氏(学部生)

【実施概要】

理系を志望する高校生を対象に、理系(理学・工学・農学・環境理工学・薬学・保健学)の学部生および大学院生とのフリー・トーキングおよび研究紹介ポスターの展示・説明を実施した。想定を上回る来場者があり、全来場者数は集計できなかったが、フリー・トーキングには207名が参加した。

また、フリー・トーキング参加者を対象に実施したアンケートでは133名からの回答があった(回収率64.7%)。回答者の構成は1年生が30名(22%)、2年生が62名(46%)、3年生が33名(25%)、保護者が9名(7%)であり、文理選択後の2年生、3年生の生徒の割合が高かった。

進路選択の参考になったかどうかの選択式の問いに対しては、86%が「参考になった」、14%が「わからない」を選択し、「参考にならなかった」を選択した回答者はいなかった。また、「理系に対しての印象が変わりお

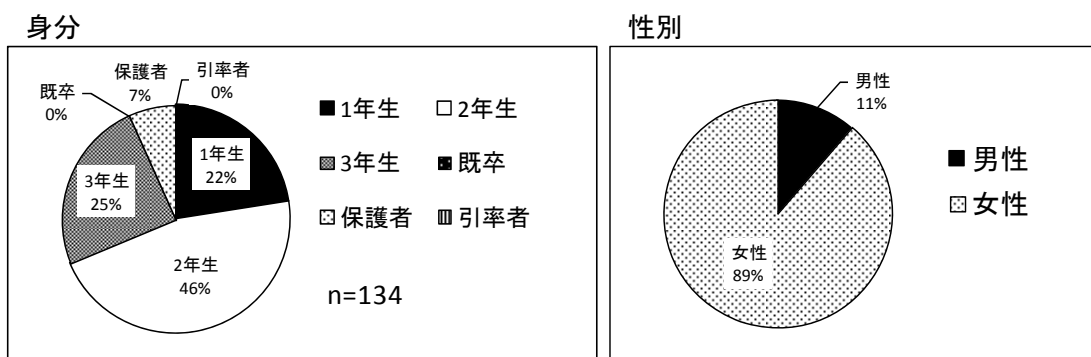


むしろそうだった」、「理系はニガテだと思っていたけど今日のお話で前より印象が変わったので、もっと考えてみようと思いました」等の感想も寄せられるなど、概ね好評であった。

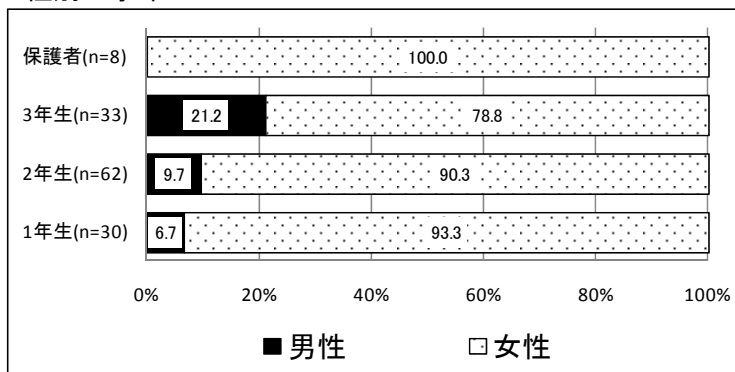
加えて、協力学生からは、「他学部、他学科の学生と交流する機会がなかったので勉強になった」等の感想が寄せられ、専門分野や学年等の異なる学生同士の交流を通して、協力学生に対しても視野を広げる機会を提供することが出来た。

オープンキャンパス参加企画「理系の魅力 女子高生の皆さんへ」来場者アンケート

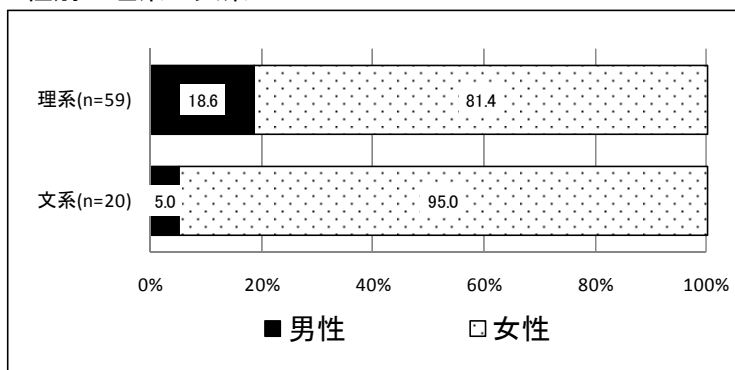
【回答者のプロフィール】



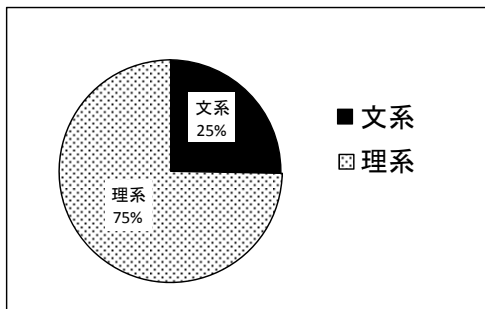
性別×学年



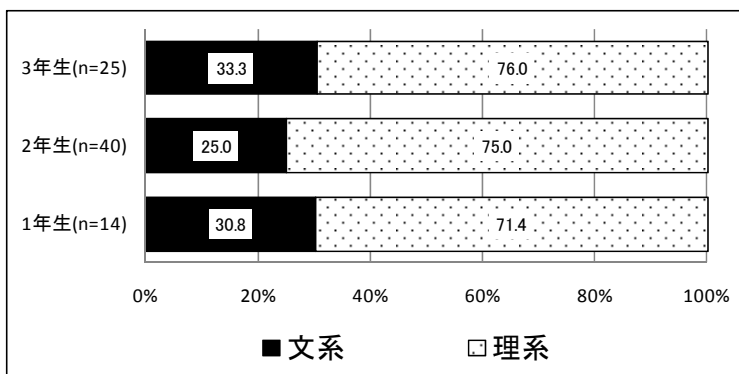
性別×理系・文系



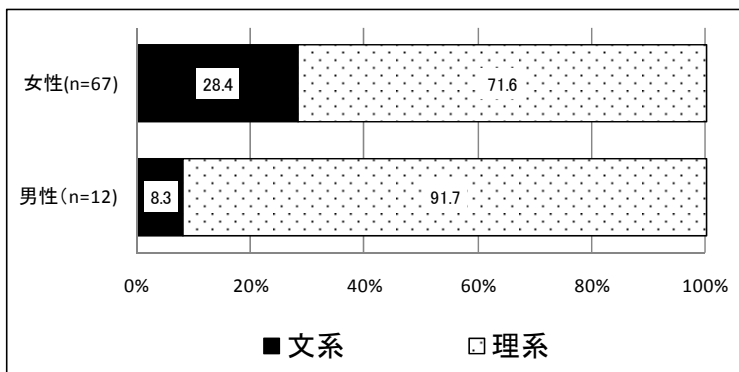
理系・文系



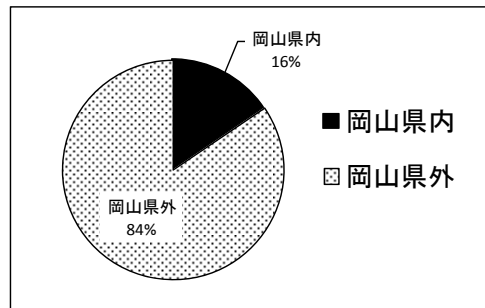
理系・文系 × 学年



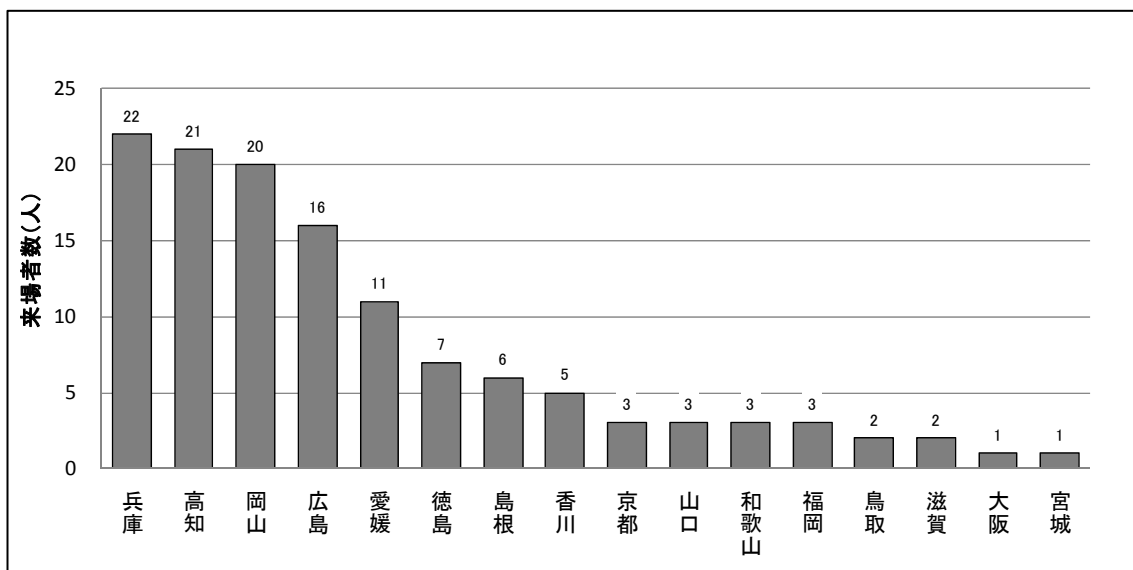
理系・文系 × 性別



居住地

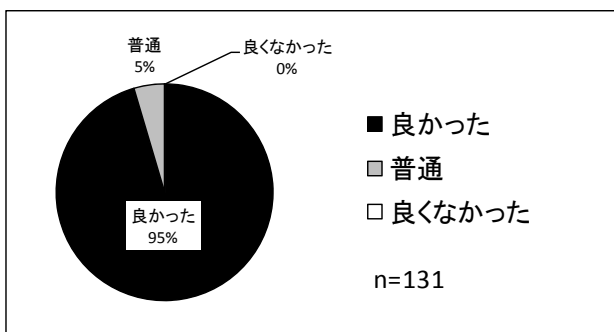


都道府県別の来場者

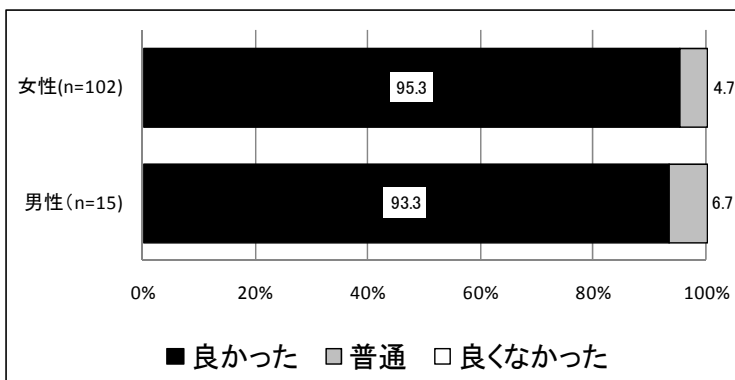


- 【兵庫県】: 篠山鳳鳴／賢明女子学院／葺合／農業／赤穂／明石／神戸星城／北摂三田／西宮／神戸／三木北／伊川谷
- 【高知県】: 土佐女子／高知追手前／高知小津
- 【岡山県】: 倉敷南／倉敷青陵／瀬戸／津山／岡山芳泉／岡山理科大学附属／岡山御津
- 【広島県】: 広島文教女子大学付属／盈進／安田女子／ノートルダム清心／忠海／広島朝鮮
- 【愛媛県】: 今治北／新居浜西／三島／松山東
- 【徳島県】: 脇町
- 【島根県】: 松江北／平田／安来／出雲
- 【香川県】: 観音寺第一／丸亀／高松第一／高松桜井
- 【京都府】: 桃山／福知山
- 【山口県】: 下関西／萩
- 【和歌山】: 近畿大学附属和歌山／賢明学院
- 【福岡県】: 福岡／八女学院
- 【鳥取県】: 米子東
- 【滋賀】: 光泉
- 【大阪府】: 園芸
- 【宮城県】: 宮城第一

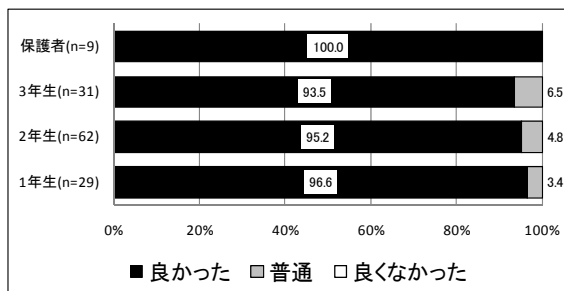
【Q1. 「理系の魅力 女子高生の皆さんへ」コーナーはいかがでしたか】



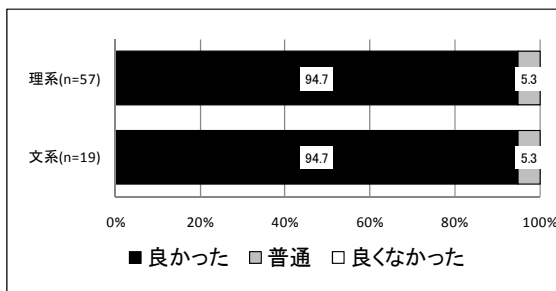
Q1 × 性別



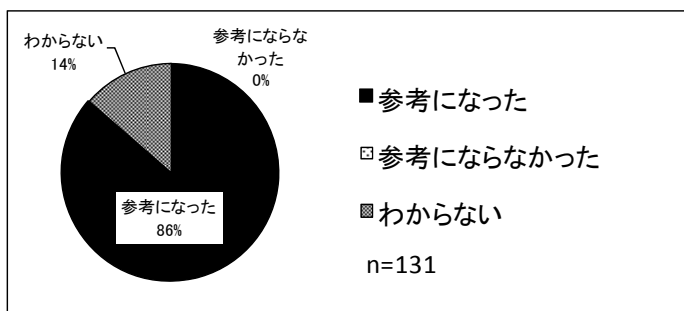
Q1×身分



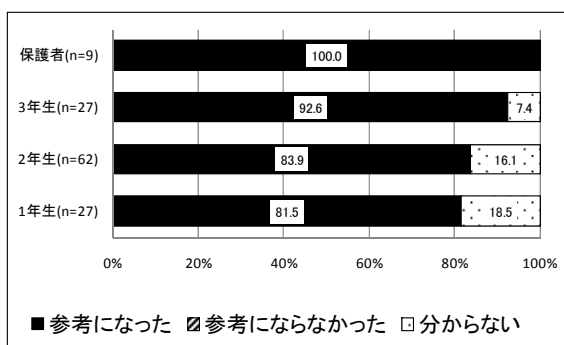
Q1×文系・理系



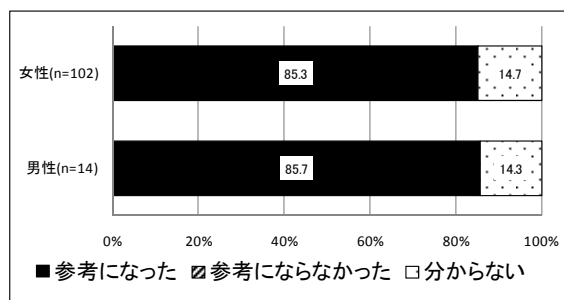
【Q2. 進路選択の参考になりましたか】



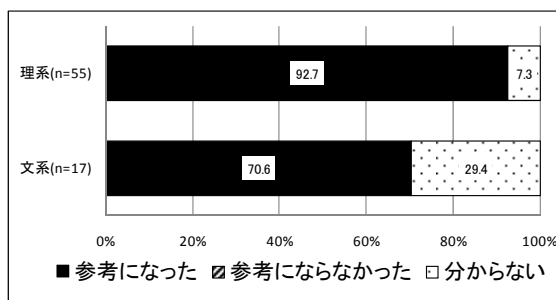
Q2×身分



Q2×性別

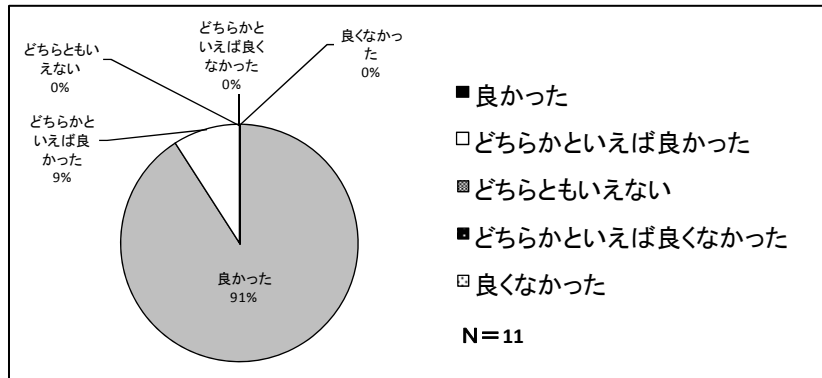


Q2×文系・理系

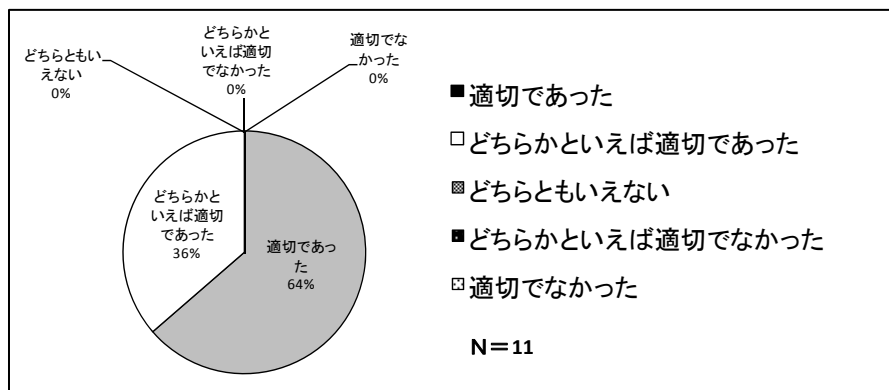


オープンキャンパス参加企画「理系の魅力 女子高生の皆さんへ」協力学生アンケート

【Q1. 「理系の魅力 女子高生の皆さんへ」に協力して良かったと思いますか？】



【Q2. 実施内容は適切だったと思いますか？】



「理系の魅力 女子高生の皆さんへ」ポスター・ちらし

文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」
学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

理系の魅力 女子高生の皆さんへ

事前申込み不要
飲食持込み可
入退場自由

日時 2011年 8/ 5 Fri・ 6 Sat
11時00分～16時00分

場所 岡山大学総合案内センター（大学会館）
喫茶コーナー

**理系女子大学院生・
大学生とのフリー・トーキング
研究紹介（理系）ポスター展示**

理系（理学・工学・農学・環境理工学・薬学・保健学）の現役大学生や大学院に進学した院生の皆さんが理系の面白さを伝えます。
学生生活や大学での研究について、少しだけ先輩の女子大学生・大学院生になんでも気軽に聞いてみよう。

理系学部の違いってなんだろう？
理系文系の違いってなんだろう？
大学院ってどんなところ？
どんな研究をしているんだろう？
どんなところに就職しているんだろう？

お問い合わせ先
岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
E-MAIL : sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
TEL & FAX : 086-251-7011
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/>

会場地図
津島キャンパス
中央図書館（時計台）
創立五十周年記念館
理学部
農学部
工学部
総合案内センター（大学会館）
第一体育館
第二体育館
薄水記念体育館
ヒューニオン
福祉利便館
一般教育棟
ココ！
総合案内センター

次世代女性研究者育成推進事業

IV-i-5 (3) 教養教育科目の提供：男女共同参画の視点に立つキャリア教育の実践

平成23年度開講の概要

事業実施2年目にあたる平成22年、男女共同参画室では、学生に対する男女共同参画に関する意識啓発の一貫として、広報・意識啓発推進部門が中心となって新規に教養教育科目を開講することにした。沖陽子室長に加えて広報・意識啓発推進部門長である中谷文美教授（大学院社会文化科学研究科）および藤井雅美助教（当時）（男女共同参画室）がオムニバスによる男女共同参画の視点によるキャリア教育科目「社会人のためのプレリュード：望ましいライフスタイル実現のために」を企画し、平成23年より主題科目（人間と社会）として提供することとなった。

1) 授業日程

授業は、前期木曜2限に開講した。（詳細はシラバス参照のこと。）

2) 授業内容

授業は、シラバスにあるとおり、学内外の非常勤講師の協力を得てオムニバス形式で行われた。非常勤講師の名前があるコマ以外は、男女共同参画室員2名が授業を行った。

3) 受講者

当初は、抽選の結果選ばれた教室収容定員ぎりぎりの66名が受講登録したが、最終的には36名が単位を取得した。単位を取得した学生の所属学部は以下の通りであり、人文社会科学系の学生の割合が少し高くなった。

人文社会科学系 21名（内訳：文学部1，教育学部9，法学部8，経済学部3）

自然科学系 15名（内訳：理学部1，薬学部1，工学部11，環境理工学部2）

男女別に見たところ、女性16名、男性20名と男性が過半数を占めた。

4) 評価

成績は、シラバス記載の通り、授業への出席（30点）、リアクションレポート（48点）、および総合レポート（22点）で評価した。評価の内訳は、優が1名、A+が14名、Aが11名、BおよびCが各5名、Fが3名であった。

5) 学生からの評価

学期末に教育開発センターが実施した授業評価アンケートでは、以下のような評価を受けた（評価はいずれも5点満点）。なお、アンケートには最終回の授業に出席した34名が回答した。

Q1：あなたはこの授業を受講するにあたって、意欲的に取り組む努力（予習・復

習など)をしたと思いますか。(3.9点)

Q2: この授業を受講することで、この分野の重要性を深く認識するようになったと思いますか。(3.7点)

Q3: 担当教員の授業に対する熱意・意欲を感じましたか。(3.6点)

Q4: 授業の進め方(声の大きさ、板書、教具、視聴覚機材の使用など)は受講生が理解しやすいように、十分な配慮がされていたと思いますか。(3.3点)

Q5: 教材の選定、参考書の紹介等(演習・実習等の場合:説明資料、機器の準備なども含む)は適切であったと思いますか。(3.6点)

Q6: 授業全体のスケジュールや1回の授業の時間配分は適切であったと思いますか。(3.4点)

Q7: 授業内容は、最終的にシラバス記載の学習目標に達するものになっていたと思いますか。(3.7点)

Q8: 最後に、この授業全体に対するあなたの評価を総合的に5段階で表してください。(3.6点)

担当教員は、独自に授業に対する評価票を作成し、合計3回評価を実施した。約3分の1の授業が終わった第5回では、講義への感想および自己の参加状況について自由に記述してもらった。2度目のグループ討議を行った後の第11回では、グループ討論に評価対象を絞って評価を実施した。最終回である第15回には、講義から得たことおよび講義への当初の期待が満たされたかどうかを尋ねる評価を実施した。なお、第1回では講義に期待することを尋ねている。主な評価結果は以下の通りである。

- ✓ 第5回の時点では、受講生は自己の参加状況について肯定的な評価をしていた。
- ✓ 第5回の時点では、受講生はグループ討論を始めとして授業全体については肯定的な感想を持っていたが、リアクションレポートに負担感を感じている学生が多かった。
- ✓ 第11回で、グループ討論を行った第5回と第10回の授業への参加状況について5段階で自己評価してもらったところ、第5回の方が第10回よりも平均点が高かった。どちらの場合も、司会、発表、記録の役割を果たした者の方が自己評価は高かった。
- ✓ グループ討論に関して提案を求めたところ、グループの規模を小さくするべき、時間が不足している、との提案が多くあった。
- ✓ 第1回に授業への期待を尋ねたところ、「色々な人の話を聞いて、将来の参考にした」という意見が大多数であった。
- ✓ 第15回に、授業への期待が満たされたかどうかを尋ねたところ、「ほぼ満足した」が22名と最も多く、「十分満足した」が2名、「あまり満足しなかった」が9名であった。
- ✓ 第15回に授業から得たものは何かを尋ねたところ、子育てと仕事の両立や、女性研究者の大変さ等を約半数の15名が挙げており、多くの学生にとって男女共同参画の問題が印象に残ったようであった。

シラバス (2/4pg)

授業計画	
<p>教科書 なし</p> <p>参考書等 授業で参考図書等を適宜紹介します。</p>	
<p>第1回 4月14日</p>	<p>ガイダンス 授業の概要について説明する。</p>
<p>第2回 4月21日</p>	<p>私たちの大学生時代(夢・自分探し1) 大学生として自分の将来との関係でどのようなことを考えて、行動したかについて、本学の若手女性教員4名が自らの経験について語りグループ討論を行う。</p> <p>講師 江口 律子 氏 (大学院 自然科学研究所 特任助教) 御興 真穂 氏 (大学院 自然科学研究所 特任助教) 三谷 奈見香 氏 (京都府立大学 自然科学研究所 特任助教) 吉岡 美保 氏 (大学院 自然科学研究所 特任助教) 注: 教壇は B31。</p>
<p>第3回 4月28日</p>	<p>自分は何者?(夢・自分探し2) 会社に入り勤めた後、博士を取った。現在は高校で教える普通の中年男性である講師が、その体験を通して夢とはなにか、どのように実現するのかについて語る。</p> <p>講師 若田 健一 氏 (岡山県立岡山県立岡山高等学校 常勤講師)</p>
<p>第4回 5月12日</p>	<p>自衛的にキャリアを開設しよう(働く1) 企業の人事労務部門での経験が深い講師が、自衛的に自らのキャリアを設計することについて語る。</p> <p>講師 有澤 和夫 氏 (キャリア開発センター 准教授)</p>
<p>第5回 5月19日</p>	<p>女性のライフイベントと仕事(女性のキャリア形成1) 女性が対応することを余儀なくされる出産等のライフイベントおよび企業や大学における女性の活躍支援(キャリアアップと回立支援)の現状と課題について紹介し、グループ討論を行う。</p> <p>注: 教壇は B31。</p>
<p>第6回 5月26日</p>	<p>歴史からみた女性のライフコースと結婚(恋愛・結婚1) 女性史を専門とする講師が、女性のライフコースと結婚の問題を歴史的視点から講演する。</p> <p>講師 秋山 美果子 氏 (大学院社会文化科学研究科客員研究員、国立民族</p>

シラバス (1/4pg)

<p>911221 社会人のためのブレユード：望ましいライフスタイル実現のために 平成23年度前期 教養教育科目 主修科目 (人間と社会) 2単位 一般教養科目 D種 講義室 D365 本室2時限 (10:25-11:55)</p>	<p>講義の概要</p> <p>この講義は、ダイバーシティ推進本部男女共同参画室が平成23年度から新たに開講するものです。ライフキャリアの考え方に基づき、仕事だけでなく私生活もふくめて将来のキャリアを考える機会を提供することを意図しています。自分探し、恋愛・結婚、働く、親になるという4つのテーマについて、多様な背景を持った学内外の講師がオムニバスで授業を行います。卒業後の進路に迷っている、あるいは長期的なライフプランを考えている学生の皆さんの受講を歓迎します。</p> <p>講義の目標</p> <p>① 自分を知り、他者を知ることによって個々の尊重について考える。 ② 自分のしたいことを考え、そのためには何が必要かを考える。 ③ 大学を卒業した後、自分がどのような変化に直面していくのかを考え、長期的視点を養う。 ④ それらに備え、今、大学生として自分は何をすべきかを考える。</p> <p>対象学生 23年度入学生 Aグループ(教・理・医・歯・薬・環・農) 22年度入学生 Bグループ(文・法・経・工・MP) 注: 平成21年度以前入学者は、授業時間を確認してください。</p> <p>必修・選択の別 選択必修</p> <p>オフィスアワー 随時(先ずはメールでご連絡ください)</p> <p>受講要性 なし</p>
---	---

シラバス (4/4pg)

<p>御興 真穂 氏 (大学院 自然科学学研究所 特任助教) 二宮 奈見香 氏 (資源動物科学研究所 特任助教) 注: 次世代女性研究者育成事業による講演会として公開授業とする。教室は薬学部中講義室 (2号館 2階)。</p>	<p>第15回 7月28日</p> <p>まともめ 最終プロジェクトの発表を行い、これまでの授業内容を振り返る。</p>
<p>成績評価</p>	
<p>成績は、出席 (30%)、リアクションレポート (毎回提出) (48%)、及び総合レポート (最終提出・発表あり) (22%) の組み合わせで評価します。</p>	
<p>出席 (30点)</p> <p>この授業は、多様な背景を持った講師の話を聞いて自らのライフスタイルを考えることを目的としているため、授業に毎回出席することが重要です。受講生は、4月14日～7月28日の授業 (全15回) に出席し、毎回出席カードを提出すること (各2点)。10分以上遅刻あるいは早退した場合は1点減点します。</p>	
<p>リアクションレポート (48点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義をしっかりと聞き、授業に参加した感として、リアクションレポートの提出を求めます。 ・ リアクションレポートでは内容に関する感想もしくは講師から出されたテーマについての回答を1,000字程度で記述してください (各回4点、ただし第1回、第11回、第15回を除く)。 ・ リアクションレポートは、内容だけでなく正しい日本語で分かりやすく書かれてあるかどうかを基準に評価を行います (4点: 大変良い、3点: 良い、2点: 普通、1点: あまり良くない)。 ・ リアクションレポートは授業の開始時に提出すること。遅れた場合は次回に提出することも可とします (ただし1点減点)。 	
<p>総合レポート (22点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最終レポートでは、ある特定の人物に対してインタビューを行い、その人物のライフスタイルおよびこれまでのキャリアについて理解した上で、自らの将来のキャリアの検討に役立てることを目的とします。 ・ 第11回 (6月30日) および第15回 (7月28日) に口頭で最終レポートの要旨を発表する予定です。 ・ レポートの形式および発表形態については第5回において説明します。 	
<p>受講生へのお願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この授業は、ダイバーシティ推進本部男女共同参画室が平成23年度から新たに開講するものです。今後、授業をよりよいものにしていくために、受講生の皆様のフィードバックが大切です。学期中に授業評価 (第5回および第10回を予定、各5分程度) および受講生調査 (第1回および第15回を予定、各10分程度) を行いますのでご協力下さい。 ・ レポートの作成にあたっては、他人の意見を無断で使う等の不正をしないでください。 ・ 授業中は私話、携帯電話の利用、飲食等の行為は避けてください。 	

シラバス (3/4pg)

<p>学術情報特別客員教授)</p> <p>メンタルヘルスを維持するために (編く2) 臨床心理士の講師が、自身の問題だけでなく職場の回復の問題としても取り組むる立場におけるメンタルヘルスの問題について語る。</p> <p>講師 小畑 千晴 氏 (ダイバーシティ推進本部男女共同参画室 女性サポート相談室 相談員)</p>	<p>第7回 6月2日</p>
<p>スガキな恋愛の条件～デートDV、それって愛？～ (恋愛・結婚2) 長年におわたる相談経験を持つ講師が、恋愛について、特にデートDVについて講義する。</p> <p>講師 市島 恵子 氏 (社会心理学講師、心理専門相談員)</p>	<p>第8回 6月9日</p>
<p>ハラスメントで悩まないために (編く3) 大学での相談経験を持つ講師が、職場におけるハラスメントの問題について講義する。</p> <p>講師 大島 光子 氏 (ハラスメント防止対策室)</p>	<p>第9回 6月16日</p>
<p>女性のライフイベントと仕事2 (女性のキャリア形成2) 第9回に引き続き、女性に対応することを余儀なくされる出産等のライフイベントおよび企業や大学における女性の活躍支援 (キャリアアップと両立支援) の現状と課題について紹介し、グループ討議を行う。</p> <p>注: 教室はB31。</p>	<p>第10回 6月23日</p>
<p>女性のライフイベントと仕事3 (女性のキャリア形成3) および総合レポート発表 第10回に引き続き、女性が対応することを余儀なくされる出産等のライフイベントおよび企業や大学における女性の活躍支援 (キャリアアップと両立支援) の現状と課題について紹介する。</p>	<p>第11回 6月30日</p>
<p>子どもの個性・子どもを授かるということ (親になる1) 不妊症・性同一性障害を専門とする講師が、子どもを授かるということについて講義を行う。</p> <p>講師 中塚 幹也 氏 (大学院 保健学研究科 教授)</p>	<p>第12回 7月7日</p>
<p>現代の子どもを取り巻く状況～福祉・教育の視点から～ (親になる2) 児童福祉、学校教育の視点から、現代の子どもを取り巻く状況を探る。その課題や支援の在り方について考える。</p> <p>講師 服部 道明 氏 (岡山県こども総合相談所 措置担当係長)</p>	<p>第13回 7月14日</p>
<p>私たちが研究者になろうと思った理由 (夢・自分探し3) 女性が働くことはどうということかを考える例として、研究者という高度な専門性を保持した職業人である本学の若手女性教員が自らの経験について語る。</p> <p>講師 江口 作子 氏 (大学院 自然科学学研究所 特任助教)</p>	<p>第14回 7月21日</p>

IV-i-5 (4) 次世代女性研究者育成推進事業講演会

1) 趣旨

「次世代女性研究者育成推進事業講演会」は、本学の優秀な学生・大学院生に研究者になるとはどのようなことかについて知ってもらい、研究者を目指してもらえようという趣旨で実施している。

2) 第1回講演会「自然科学に魅せられて」の実施

① プログラム

【日 時】：平成23年7月21日（木）

10:30～12:00

【場 所】：薬学部中講義室（2号館2階）

【対 象】：学生，大学院生，教職員および一般

【内 容】：

- ・講演1 「物質の性質と機能を探る ～電子状態から見る物性～」
講師 江口 律子 大学院自然科学研究科 助教
- ・講演2 「気がつけば研究者」
講師 御輿 真穂 大学院自然科学研究科 助教
- ・講演3 「私の過去・現在・未来」
講師 三谷 奈見季 資源植物科学研究所 助教
- ・フリートーク
- ・ポスター展示

② 実施報告

第1回講演会「自然科学に魅せられて」では、第I期ウーマン・テニュア・トラック教員である本学の若手女性教員3名が、研究者になるまでの過程や現在の教育・研究活動等について講演した。なお、第1回講演会は、男女共同参画室が平成23年度から提供している教養教育科目「社会人のためのプレリユード：望ましいライフスタイル実現のために」第14回講義として実施した。

講演会では、先ず、沖陽子男女共同参画室長より開会の挨拶があった後、WTT業務推進室長の富岡憲治教授（大学院自然科学研究科）がウーマン・テニュア・トラック(WTT)教員制度について説明を行った。

次に、本学のWTT教員である3名の講師が各々約20分間講演を行った。江口律子助教（大学院自然科学研究科）による「物質の性質と機能を探る～電子状態から見る物性～」では、電子のふるまいを探る実験手法である光電子分光によって物質の性質を調べる研究を行っていること等研究内容の紹介が行われた。御輿真穂助教（大学院自然科学研究科）は、「気がつけば研究者」で大学院での研究生生活について話し、博士課程への進学を検討し

ている学生へのメッセージを伝えた。三谷奈見季助教（資源植物科学研究所）による「私の過去・現在・未来」では、三谷助教が学部3回生の時に植物環境ストレス学研究室を選んだ時点に始まり、修士課程、博士課程への進学、ポスドクになることを決定した経緯について自身の経験を語った。

フリートーキングの時間には、学生が4グループに分かれて講師3名および同じくWTT教員である飯尾友愛助教（大学院保健学研究科）との間で懇談した。講師以外の教員はグループには加わらず、教室の後方で自由に懇談したり、グループの懇談状況を見学したり、あるいは会場に展示した第Ⅰ期・第Ⅱ期WTT教員7名の研究紹介ポスターを見たりした。

最後に、次世代女性研究者育成推進部門長である坂口英教授（大学院自然科学研究科）が閉会の挨拶を行い、会を締めくくった。なお、司会は篠原陽子講師（大学院教育学研究科）が務めた。

アンケートによれば、参加者の大半（回答者39名中35名）が、今回の講演会への参加は「とても」あるいは「まあまあ」有意義であったと考えている。学生・大学院生が、若手女性教員であるWTT教員の講演を聞き、講師と直接対話することにより、大学院に進学する、あるいは研究者を目指すことについて理解し、より考えを深める機会を持つことができたといえる。しかしながら、アンケートでは参加の動機も尋ねたが、「大学あるいは企業で研究者になることに関心があるから」という回答をした者は7名しかいなかった。本講演会は、男女共同参画室が本年度より開講している教養教育科目「社会人のためのプレリユード：望ましいライフスタイル実現のために」の第14回講義として開催されたため、参加者の約半数は同科目の受講生であった。そのため、研究者になることについて関心がない参加者も多かったと推測される。それでも、アンケートの感想には「みんなイキイキしていておもしろかった」、「自分は研究者とは違う道であるがあきらめずに頑張っていきたいと思いました」といった肯定的な意見が多く、このような会への参加が大学生にとって有意義であるということがいえる。

「次回以降の講演の講師・話題提供者としてどのような者が望ましいか」（複数回答可）という設問に対しては、「企業の研究者」を挙げた者が最も多かった（24名）。また、「女性に限らずともよい」と答えた回答者の方が「女性に限った方がよい」とする者よりも多かった。次回以降は男性講師の活用を検討してはどうかと考える。

セミナーの実施にあたっては、「社会人のためのプレリユード」担当教員の1人の所属部局である薬学部の協力を得、新築の講義室での実施になった。薬学部長を始め薬学部の教員も数名参加したことから分かるように、学部で講演会を実施することによる波及効果は大きい。反省事項としては、各講師の講演時間が20分と短かったためか、予定していた時間を超過してしまい、フリートーキングの時間が十分にとれなかったことが挙げられる。また、非可動式座席の講義室での実施となったために、フリートーキングの際に講師を囲む輪にスムーズに入れなかった学生が生じたことも反省に値する。今後フリートーキングを実施する際は会議室形式の講義室で実施したい。



沖 陽子室長による挨拶



江口 律子 大学院自然科学研究科 助教



御輿 真穂 大学院自然科学研究科 助教



三谷 奈見季 資源植物科学研究所 助教

第1回講演会「自然科学に魅せられて」ちらし

文部科学省科学研究費助成事業 女性研究者育成活動支援事業 (特別研究費) 研究・職人 女性研究者が育つ進化プラン

次世代女性研究者育成推進事業 第1回講演会

*** 自然科学に魅せられて ***

対象科目 「社会人のためのプレリウド」 楽しいサイエンス体験場のために (第14回開催)

江口 律子 助教
大学院自然科学研究科 機能分子化学専攻
(理学部附属基盤科学研究施設)

御輿 真穂 助教
大学院自然科学研究科 (バイオエクスプレサイエンス専攻)
(理学部附属基盤科学研究施設)

三谷 奈見季 助教
資源植物科学研究所

「次世代女性研究者育成推進事業講演会」は、学部生および大学院生を対象に、研究者としてのキャリアについて話を聞く機会を提供します。第1回講演会「自然科学に魅せられて」では、第1回ワークショップ・ミニチュアトラック教員 (注) である本学の専任女性教員3名が、研究職になるまでの過程や現在の教育・研究活動等について講演いたします。

【対象】：学生・大学院生
【定員】：100名

講演終了後に、講演者とのフリートークの時間があります。

冷たいジュースやお茶のサービスあり。

(注) ワークshop・ミニチュアトラック (注)：専任職とは、学部卒業後の女性研究者を支援対象で採用し、3年目に業績評価を行い「ミニチュア教員」の候補の選定を受ける制度です。

日時：7月21日(木) 10:30-12:00
会場：岡山大学 薬学部中講義室 (2号館2階)

【お問合せ・お申込み先】
岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室
〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
Tel & Fax: 086-251-2011 E-mail: samsaku@adm.okayama-u.ac.jp

QRコード

会場案内

次世代女性研究者育成推進事業
第1回 講演会「自然科学に魅せられて」
(平成23年7月21日実施)
アンケート集計結果
 (参加者数66名中39名から回収)

- Q1 あなたの性別を教えてください。(当てはまる番号1つに○をつけて下さい)
- | | |
|-------|-----|
| 1. 男性 | 13名 |
| 2. 女性 | 26名 |
- Q2 あなたについて教えてください。(当てはまる番号1つに○をつけて下さい)
- | | |
|------------------|-----|
| 1. 学部生 | 31名 |
| 2. 大学院博士前期課程 | 1名 |
| 3. 大学院博士後期課程 | 1名 |
| 4. 教職員(非常勤を含む職員) | 6名 |
| 5. 一般 | 0名 |
- Q3 今回の講演会への参加は有意義でしたか。
- | | |
|----------------|-----|
| 1. とても有意義だった | 20名 |
| 2. まあまあ有意義だった | 15名 |
| 3. あまり有意義でなかった | 2名 |
| 4. 全く有意義でなかった | 0名 |
- Q4 学部生および大学院生の方のみお答えください。(複数選択可)
 今回の講演会にはどのような動機から参加されましたか。
- | | |
|------------------------------|-----|
| 1. 教員に勧められたから | 2名 |
| 2. 「社会人のためのプレリユード」の受講生だから | 23名 |
| 3. 大学あるいは企業で研究者になることに興味があるから | 7名 |
| 4. その他 | 3名 |
| ・友第に誘われて | |
| ・友達から聞いて | |
- Q5 今回の講演会は、講演3つ(各20分間)およびフリートーキング(20分間)から構成されました。次回以降の講演会の形式として、以下のいずれが最も望ましいとお考えですか。(当てはまる番号1つに○をつけて下さい)
- | | |
|-------------------|-----|
| 1. 今回の形式のままでよい | 28名 |
| 2. 講演時間を長めにする | 6名 |
| 3. フリートーキングを長めにする | 4名 |
- Q6 次回以降の講演の講師・話題提供者として、どのような方が望ましいとお考えですか。(複数選択可)
- | | |
|-------------------------|-----|
| 1. 大学の教員 | 16名 |
| 2. 企業の研究者 | 24名 |
| 3. 大学の教員以外の研究者(非常勤研究員等) | 9名 |
| 4. 大学院生 | 9名 |

5. その他 9名
- * Q6で1を選んだ方にお尋ねします。
- ・大学の教員の場合、女性教員に限った方がよいと思いますか。
 - はい 4名
 - どちらでもよい 16名
- * Q6で2を選んだ方にお尋ねします。
- ・企業の研究者の場合、女性研究者に限った方がよいと思いますか。
 - はい 4名
 - どちらでもよい 20名
- * Q6で3を選んだ方にお尋ねします。
- ・大学院生による場合、女子大学院生に限った方がよいと思いますか。
 - はい 3名
 - どちらでもよい 9名
- Q7 次回以降の講演会で聞いてみたい内容を選んでください。(複数選択可)
1. 研究者・大学院生になった理由や過程について 10名
 2. 大学時代をどう過ごしたかについて 25名
 3. 現在の研究内容について 4名
 4. 研究と私生活の両立について 16名
 5. その他 0名
 - ・博士課程での経済的状況
 - ・なぜ、普通の助教 etc の公募ではなく WTT をえらんだのか？
- Q8 本日の講演会の感想をご自由にお書きください。
- ・とてもためになりました。またキカイがあればぜひ！！
 - ・参加してよかったです。
 - ・研究職に進まれて充実した生活を送られている方のお話を聞き、私も人生に納得できるような道を歩んでいきたいと思いました。
 - ・進路に迷っているのでも意義でした。
 - ・若手女性研究者の話が聞いてよかったです。大学生時代の生活や将来への不安や考え方など、知ることができてよかったです。この話を聞いて、自分の進路を考える上でよい参考になりました。
 - ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
 - ・みんなイキイキしておもしろかったです。
 - ・3人の女性研究者のお話を聞いて、自分は研究者とは違う道であるがあきらめずに頑張っていきたいと思いました。
 - ・少し時間配分がぎりぎりな気がしました。しかしよいお話がきけてよかったです
 - ・文系の人の話もきいてみたくなった。
 - ・研究と就職を結びつけた話をもっと聞きたい。
 - ・WTT採用教員の皆さんが、どのような課程を経て現在の職歴および研究テーマに出会ったかが、非常にわかり易く、また興味深かった。3人が同じ理系研究者と言われているにもかかわらず全く異なる研究をされている為 将来がある学生にとっては有意義だったのではないかと思う。(割と正直な心意を語られていたので)